



公募テーマ：

「産業構造審議会 教育イノベーション小委員会  
「中間とりまとめ」の論点の社会実装」に関するテーマ

# 未来志向の部活動実現に向けた 部活インフラ再構築実証事業

最終成果報告書

株式会社STEAM Sports Laboratory

2024年2月22日

担当者情報

- 所属・役職：代表取締役
- 氏名(フリガナ)：山羽教文 (ヤマハタカフミ)
- メールアドレス：t.yamaha@fieldofdreams-jp.com
- 電話番号：03-6206-0333

# 実証事業サマリ：株式会社STEAM Sports Laboratory

## 実証の背景と成果

### 背景

部活動を取り巻く多岐にわたる課題に対して、従来の「部活動顧問（教員）に依存した」あり方では解決困難。その糸口として、部活動のDX化を進めることにより、生徒の主体的な部活動推進の実現を目指す



### 成果

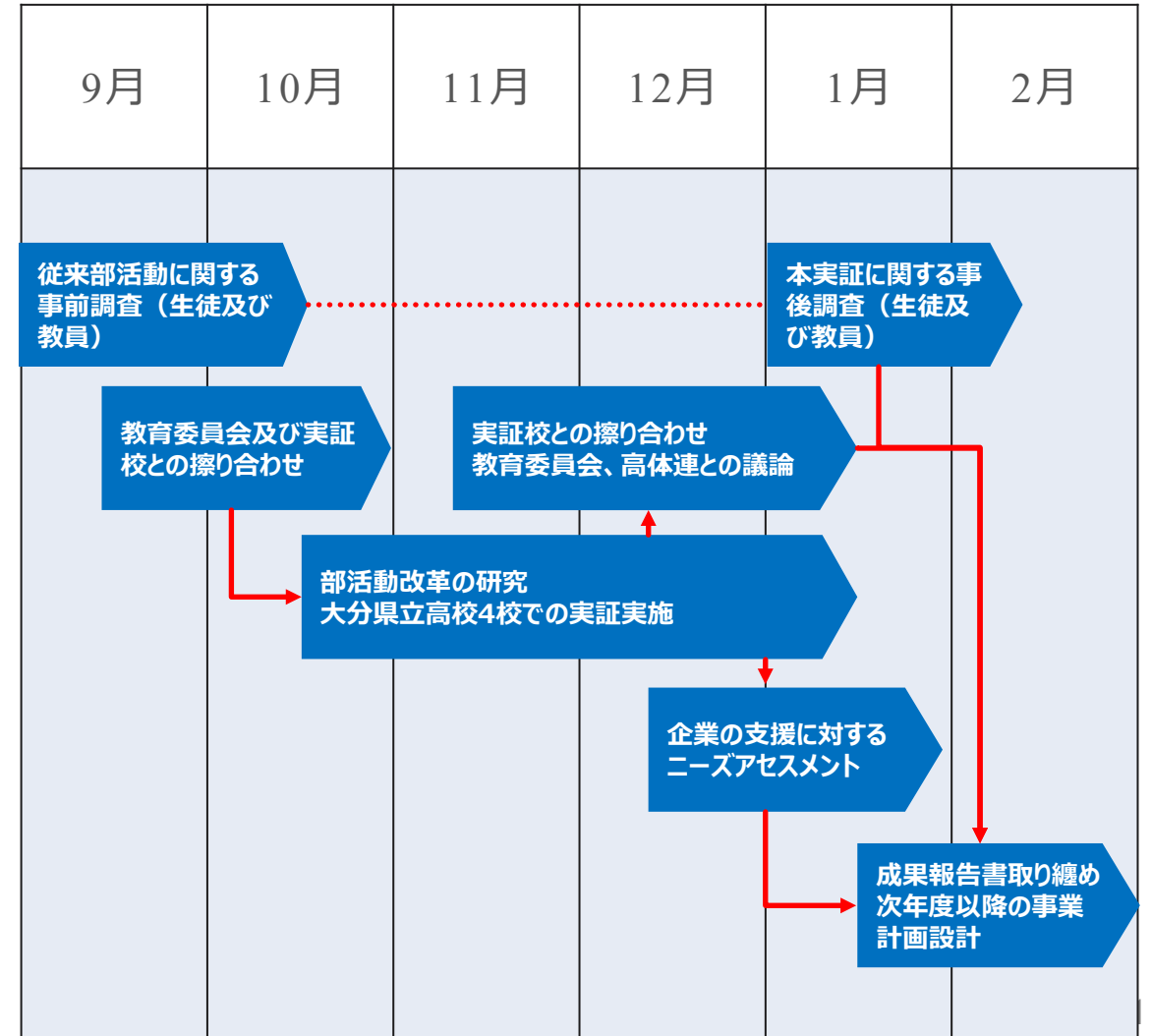
#### ① 生徒向けオンラインサービスの実装

- 競技力だけでなく、主体性・非認知能力を醸成する部活動探究サービスのプラットフォームを生徒向けに設計
  - 生徒がオンラインサービスを活用するには最初の動機付けが重要であり、部活動顧問の介入は一定必要

#### ② 次年度以降の自走プランの設計

- 従来のサービスで扱われる競技指導に加え、教員の管理業務・進路指導を支援できるようサービス拡大
- 上記により、顧問の負担軽減に加えて「部活動と大学入試/人材育成を接続する仕組み」を訴求することで、自治体予算獲得を目指す
- 並行して、「部活動改革支援」や「高校部活動生へのアクセス」、「地元地域の活性化」を訴求することで、企業協賛の可能性を示唆

## 実証内容



# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix



# 1. 事業者

## PROFILE

企業名 株式会社STEAM Sports Laboratory

所在地 東京都世田谷区上用賀1-1-1-S102

設立 2018年11月19日

資本金 19,500千円

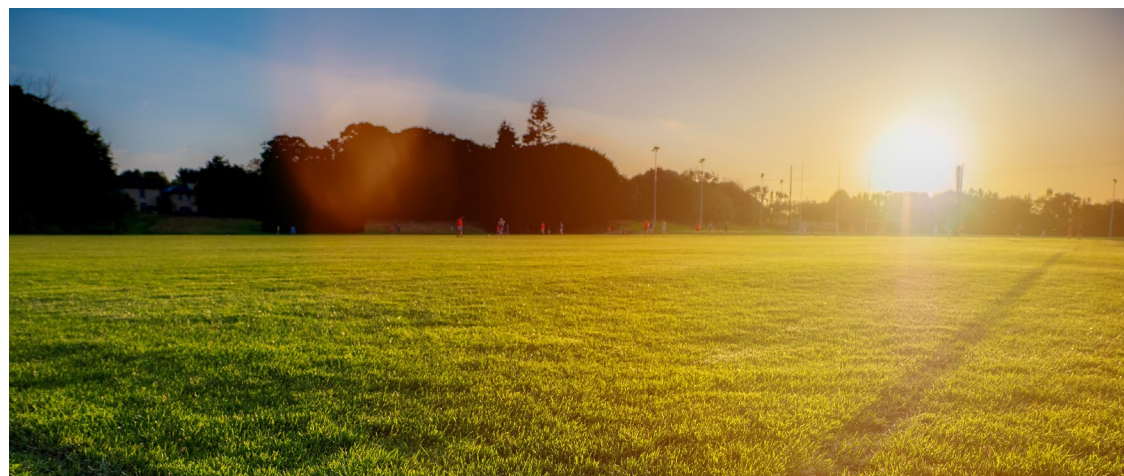
代表者 山羽 教文

事業内容 スポーツ教育サービス開発・運営  
スポーツ教育キャンプ・スクール企画・運営  
スポーツを起点とする探究教材開発

理念 「遊び」と「競争」の要素を兼ね備えたスポーツの特性を活かし、スポーツを起点に、社会が求める人材育成に貢献する。  
『スポーツを通じて、人生の主人公に！』を企業ミッションに掲げる。

## 『未来の教室』事業における取り組み

- 体育向けSTEAM教材開発 (STEAMタグラグビー) '18年度
- STEAMタグラグビーの体育での効果検証 '19年度
- 部活動向けSTEAM教材開発 '20~'21年度
- 中高生向けオンライン部活動の可能性検証 '22年度
- 高校生向け部活動プラットフォームの検証 '23年度



# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 2. 背景と目指す姿

### 背景

#### 問われる教育活動としての部活動のあり方...

- 我が国のアスリート育成の基盤であり、教育活動の一環として重責を担ってきた学校部活動であるが、「少子化問題」に加え、「働き方改革」が推進される中、従来の体制維持が困難に…。地域を巻き込んだ「部活動改革」は不可避である一方、課題も山積。将来に亘って持続可能な部活動のあり方を模索する動きが急加速。
- 教員の部活動に要する業務時間が、足元の10年で突出して増加しており、教員の働き方改革の中でも、部活動のあり方の改善は最優先事項であると言われている。
- そもそも部活動が学校教育の枠組みの中で実施されてきたのは、「教育活動の一環」という認識のもとであるにもかかわらず、地域移行の文脈では競技指導に偏重した議論に終始（隠れた大きな課題の一つ）。我が国の教育政策（「これからの時代に求められる人材像」）に則った「部活動改革」が期待される。
- 次期教育振興基本計画では、「2040年以降を見据えた持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられ、具体的な資質・能力として、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどが挙げられた。具体的施策として、文科省は、これから求められる人材育成のために、高等学校教育と大学教育、及び大学入学者選抜の一体的改革（高大接続連携改革）を推進している。

### 目指す姿

#### 時代が求める「新しい部活動」を支援するインフラ構築

- 戦後復興時代から継承される、従来の部活動は、部活動顧問（先生）から生徒に教え与えられる「トップダウン型指導」に象徴される。高度経済成長期に求められる人材像（つまり、「決められたことを、決められた通りに、より効率的に遂行する能力と意欲を持った人材」）を考えると、然るべきとも言える。
- しかしながら、これからの時代においては、「試行錯誤しながら課題に立ち向かっていく能力と意欲を持った人材」が求められており、従来の「トップダウン型指導」は馴染まない。いま求められているのは、「好奇心に基づいた探究力の強化に向け、問題発見や課題解決的な学び」の機会であり、つまりは、「部活動（スポーツシーン）における問題に対して、他者と協調しながら生徒自身が主体的に解決を図ること」を促進する部活動環境である。
- その新たな施策として、部活動のDX化（デジタルデバイス・オンラインの活用やスクーリング・コーチング・オンデマンド等を組み合わせた、生徒の主体性を尊重した部活インフラ環境を構築）を図る。生徒の主体性により部活動が推進されることにより、結果的に部活動顧問の部活動に要する業務負担が軽減されるばかりでなく、これからの社会が求める「2040年以降を見据えた持続可能な社会の創り手」の育成にも繋がる。つまり、部活動の教育的意義を担保しながら、教員の負担軽減が実現される。

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 3. 実施体制・実証フィールド

### 実施体制

---

事業受託者：株式会社STEAM Sports Laboratory

統括責任者：代表取締役 山羽教文

執行責任者：取締役 原口富明

渉外担当：野辺秀紀

委員：八田茂（企業リサーチ）

：小松健太郎（DXサポート）

監修：鹿屋体育大学 小松崇志（効果分析）

講師：長島未央子（スポーツ栄養）

講師：海江田晃（フィジカルトレーニング）

講師：新堀雄介（総合型選抜入試対策）

講師：平林泰三（マインドセット）

講師：片山宗巨（野球）

講師：中田和秀（バスケットボール）

講師：岸岡智樹（ラグビー）

講師：石川安彦（MC）

### 実証フィールド

---

①大分県立杵築高校

・野球部

・選手19名、マネジャー4名

②大分県立中津南高校

・野球部

・選手15名、マネジャー3名

③大分県立大分鶴崎高校

・バスケットボール部

・選手17名、マネジャー1名

④大分県立玖珠美山高校

・ラグビー部

・選手13名、マネジャー3名

※実施内容(オンラインサービス実装)は4校とも同じ。ただし、サービス利用は生徒の意志に従うため、利用方法や利用頻度については、各学校・各部・各生徒によって異なる。

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

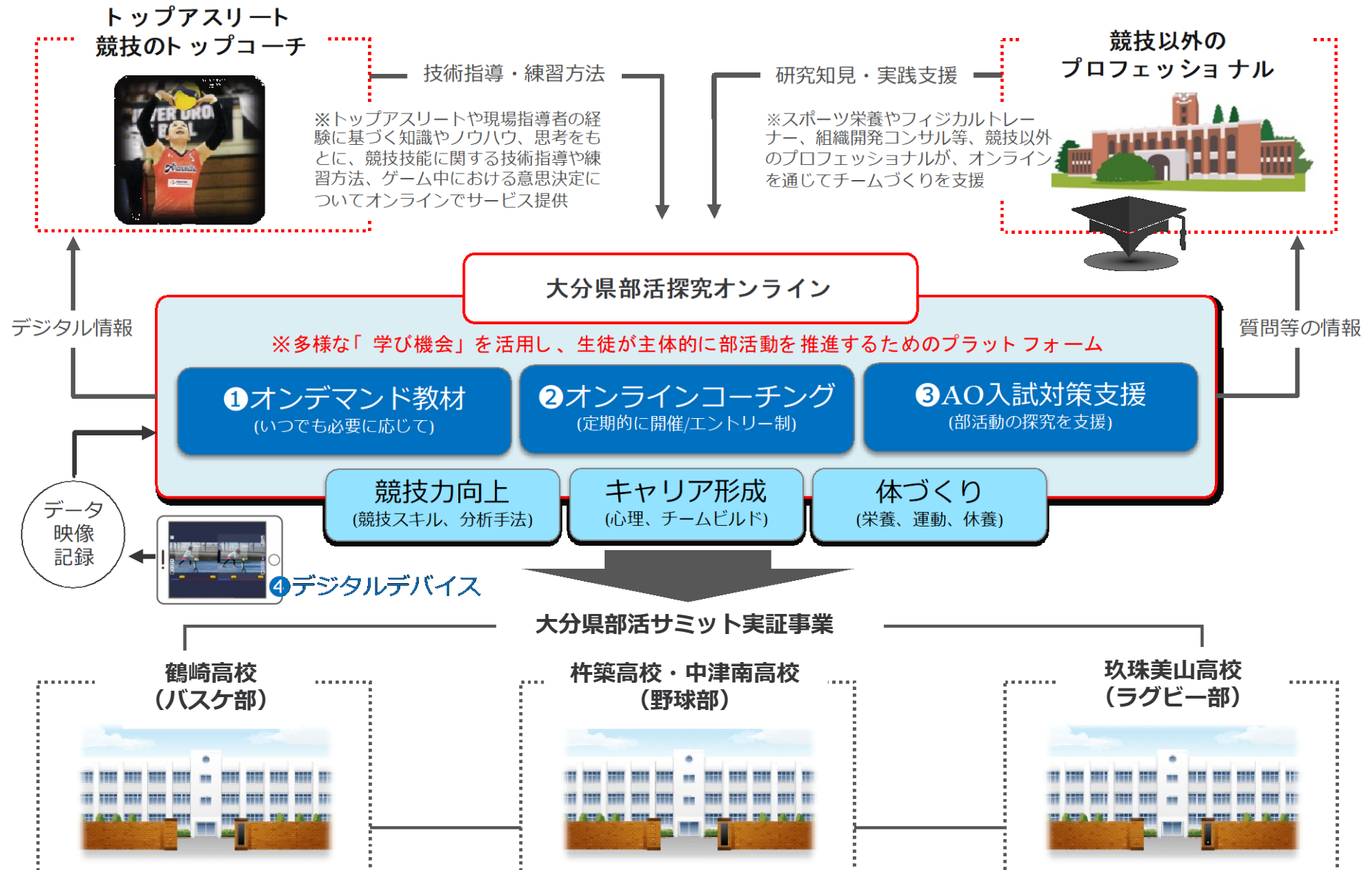
Appendix

## 4. 実証内容概要

	狙い	取組内容
①オンラインサービスの実装	<p>生徒の主体的取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の主体性を引き出すために、生徒の個別最適及び自律を念頭に、多様な「学び場」と「学び方」の機会を提供</li></ul> <p>教員の負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒の主体的な活動に加え、教員の専門領域外の「学び場」を支援することにより、業務負担が軽減される</li></ul>	<p>サービスの創出</p> <ul style="list-style-type: none"><li>オンデマンド動画教材（いつでもニーズに応じて視聴可能）に加え、エントリー制のオンラインコーチング・スクーリング機能を実装</li><li>内容は、競技指導の一環として「技術指導」に留まらず、「体づくり」や「チームづくり・目標設定」等を準備</li><li>部活動経験をAO入試対策に活かすためのコンテンツも準備</li></ul> <p>創出したサービスの実証</p> <ul style="list-style-type: none"><li>活用事例の情報収集</li><li>生徒の非認知能力、パフォーマンス、情意認知領域の変化を分析</li><li>教員の業務負担に関する調査</li></ul>
②自走プランの検討	<p>自治体・学校予算の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"><li>自治体もしくは学校として予算化しなくても取り組まざるを得ない「困った」を支援するサービス設計</li></ul> <p>企業協賛の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"><li>高校部活動生（または自治体、学校、教員）マーケットに対するアプローチニーズを検討</li></ul>	<p>自治体・学校向け訴求パッケージの作成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>教員の働き方改革（部活動業務負担軽減）に繋がるサービス機能の実装</li><li>AO入試対策のコンテンツ開発と合わせて、「高大接続連携改革」に資する部活動のあり方を自治体・学校へ提案</li></ul> <p>企業向け資金収集パッケージの作成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>地場企業の支援意欲とニーズ把握</li><li>地域を拠点とする企業との協業可能性の検討</li><li>部活動との親和性の高い企業の支援意欲とニーズ把握</li></ul>



## 4. 実証内容詳細①オンラインサービスの実装（事業概要）





## 4. 実証内容詳細①オンラインサービスの実装（プラットフォーム機能）

1. 普段の活動に必要な競技スキルや練習方法、その他パフォーマンス向上に必要な知識をオンデマンド教材の中から選択して受講
2. 特に関心のあるテーマや更に詳しく知りたいテーマについては、オンラインコーチングにて専門コーチ（Appendix p.31）から学ぶ
3. デジタルデバイスを活用しながら、学んだ内容を実践し、スキル習得・習熟を目指す（課題発見や練習成果をデジタルデバイスで確認）
4. 上記で実践した部活動における主体的活動・経験を将来に活かせるよう、AO入試対策サポート（Appendix p.32）を受講

### 大分県部活探究Online (部活支援プラットフォーム)



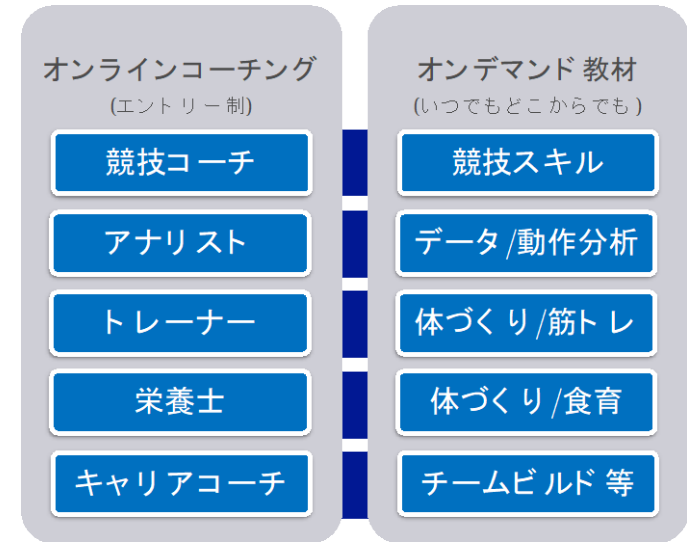
## 4. 実証内容詳細①オンラインサービスの実装（コンテンツ）

オンデマンド教材の知識をもとに継続的な鍛錬・探究支援をオンラインにて実施

（※オンラインコーチングは、原則部活終了後の20時30分～21時30分の1時間/希望者が参加するエントリー制）

【実証事業期間に提供したオンラインコーチングのテーマ一覧】

- 競技スキル習得を目的（**ヤ**：野球、**バ**：バスケットボール、**ラ**：ラグビー）
- 身体づくりを目的（**食**：スポーツ栄養、**ト**：フィジカルトレーニング）
- 個人の目標達成を目的（**個**：個人の目標）
- チームづくりを目的（**チ**：チームの目標）
- 部活動経験を総合型選抜入試に活かすためのコーチング（**進**：進路指導）



【オンラインコーチングのスケジュール（2023年10月～2024年1月）】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
10月														チ			チ	バ					ヤ										
11月	バ			チ				ト	ヤ食					個	バ	食	チ					個		ヤ	ラ				進	バト			
12月	チ				個		ヤ食					個	バ		ラ				進	ト	ヤ食	チ											
1月					ヤ				個	バ	ヤ						ト	ラ	チ														

## 4. 実証内容詳細②自走プランの検討（自治体・学校に対するニーズアセスメント）

①オンラインサービス の検証と並行して、関係者のニーズを調査したところ、技術指導以外の教員負担の声が複数存在(下記)  
上記を踏まえ、生徒向けサービスだけでなく、教員向けの支援の可能性も見据えて自治体・学校向けの訴求パッケージを作成。加えて、導入費用を抑えるために企業からの資金収集の可能性を模索（集計データはAppendix p.33）

### 対象者

### インタビュー結果

大分県教育委員会（体育保健課）

- 生徒が主体的に考え、顧問とともに新しい運動部活動のあり方について協議しあう、生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築を目指し、昨年度より「部活動サミット（合理的かつ効率的・効果的な部活動の実践事例を県内で共有）」を推進。部活支援プラットフォームが、生徒の主体性を引き出したり、新しい部活動のあり方を模索したりする機会を提供してもらいたい。

大分県高校体育連盟

- 教育活動の一環として部活動実施してきた背景を考えると、短絡的に地域移行を進めれば良いということにはならない。部活動の教育的意義を担保しながら、どのように教員の負担を軽減できるか考える必要がある。
- 部活動改革の一方策として外部指導員の派遣を実施しているが、**教員と外部指導員とのコミュニケーションが十分にとれておらず、その潤滑油の役割をプラットフォームが担ってくれるとありがたい。**
- 部活動を通じて得られた生徒たちの学びと思い出が記録として残ると良い。アプリについては、シンプルかつ（感覚的に）分かりやすいのもでないと、最近の学生は使わない。

実証校部活動顧問

- 杵築高校野球部
- 中津南高校野球部
- 大分鶴崎高校バスケット部
- 玖珠美山高校ラグビー部

- 従来、専門外の領域については事前準備が必要であったため、かなりの負担であったが、そこが軽減されるのは大きい。また、専門領域においても、生徒が事前に理解していると、練習効率も上がる。
- **練習内容や練習計画が適切なかどうか知りたい。**生徒自身がそれをできるようになると負担は軽減される。
- オンラインコーチングに加え、デジタルツールやテクノロジーを活用することによって、生徒が主体的に取り組む。
- **競技指導ではないが、マッチメイクにかなりの時間を要している。**

その他部活動顧問（アドバイザー）

- **部活動業務には競技指導以外にもあるが、以前と異なり、継承されていないことが多い。**（Appendix）
- 従来の部活動の取り組み方では、それだけでAO入試を突破することは難しいため、ボランティア活動等、部活動以外のことも経験しなければならない。

## 4. 実証内容詳細②自走プランの検討（ニーズアセスメントから得られた示唆）

- 今年度の実証を踏まえ、プラットフォームの導入に関して、以下が明らかに
  - －新しい取り組みだったこともあり、生徒の主体的参加を前提とするプラットフォームの活用に時間を要したため、顧問の先生にプラットフォーム活用に対する声掛けを依頼。その後、徐々に活用頻度が上昇した
  - －従前の慣習に新しいものを取り入れる際には、馴染むまでの一定期間、**教員の関与・介入（後押し）が必要**である
  - －つまり、生徒に直接提供するのではなく、**教員を経由して提供するサービス**がベター
  - －一方で、オンラインコーチングの開催時間について、顧問の先生と議論する中で、練習のオフの日には塾に通う生徒が一定数いることが判明。生徒は、部活動に、塾に、多忙を極めていることを把握
  - －「部活動」と「塾」に対する保護者の投資意欲の違いについて検討。**「進学」に繋がるか否かの違い**ではないかと仮説できる
  - －大学入試制度改革のトレンドから、**「部活動」と「進学」を繋げることを着想**
- 当初の目的である「教員の部活動業務の負担軽減」を念頭に、上記を踏まえ、教員向けのプラットフォームとして再構築し、教員の業務支援を通じて、生徒の部活動経験の充実を目指す
  - －教員の部活動業務は、「**競技指導**（今年度の実証内容）」に加え、「**管理業務**（保護者対応、体育協会関連業務等）」と「**進路指導**（総合型選抜対策等）」の3つのカテゴリーに分類可能。**特に、管理業務・進路指導は支援充実の余地あり**
- 競技指導から進路指導まで一貫した部活動支援**により、社会に求められる人材の育成が可能ではないか
  - －従来、部活動は教育活動の一環として実施されてきた以上、**教育的意義を担保**する必要あり
  - －高大接続連携改革が進むなか、**部活動の「探究学習」としての側面を強化することにより、部活動経験が進路にも繋がる**

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 5. 実証結果概要

### 成果

#### ①オンラインサービスの実装

サービスの効果測定結果 (p.17~18)

- プラットフォームの活用頻度が多い (3~4回/週) 生徒の非認知能力 (ライフスキル) が向上
- 生徒の活用を前提に、教員の競技指導における負担は質と量において改善。生徒の活用に対する最初の動機づけが課題

サービスを踏まえた活用方針の明確化 (p.21~23)

- 生徒の活用頻度により効果に違いが出るため、教員の介入方法を検討する必要がある。「教員の指導関与度」と「部活動の方向性」によって、有効な活用・介入方法を提案

次年度以降のサービス更新の方針 (p.19~20)

- 何かしらの「教員介入」を作り出すため、教員向けの「部活動業務支援プラットフォーム」に再構築
- 今年度の「競技指導」支援サービスに加え、「管理業務」と「進路指導」を追加し、3つのカテゴリにおいて部活動業務を支援する

#### ②自走プランの検討

自治体・学校からの反応 (p.24)

- 教育委員会 (体育保健課) 及び複数の教員が、次年度以降の更新サービスに対して、「内容的にも料金的にも導入検討に値する」と回答
- 但し、県下全校への導入に向けては、大分モデルとして、実証しながら理解浸透を図る必要があるため、1年間のトライアル導入を提案される (他の自治体からも同様の反応あり)

企業からの反応 (p.25)

- 「学校部活動」「教育活動」「地域活性」という観点から、社会的に意義のある事業であることについては、いずれの企業も異論なく、特に地方においてはその思いが顕著
- 但し、協賛することについては、それぞれの企業の「成長フェーズ」と「業種や立場」、及び本事業の「成長フェーズ」を勘案する必要があることが判明

次年度以降のロードマップの作成 (p.29)

- 大分県をはじめ、複数の自治体に対して、春先を目処に「部活動業務支援プラットフォーム」のトライアル導入を目指す。半年~1年間の実証を経て、トライアル次年度からの有償サービス化に繋げる



## 5. 実証結果詳細①オンラインサービスの実装（生徒に対する効果）

非認知能力の効果測定・ヒアリングを踏まえ、本サービスは批判的思考、創造的思考、意志決定スキル等のライフスキル向上に有効と明らかになった。また、その効果は活用頻度が増えるほど高いことも分かった（※なお、「短期間×母数が少ない」効果検証であるため、実際にどれくらい効果があるかは「長期間×母数をそろえた」測定が必要）（集計データはAppendix p.34~40）

	効果測定方法	結果・考察
認知領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業が生徒の認知領域（知識・理解や思考力、創造力、評価）の形成に効果的であったか否かを評価するために認知形成評価票を実施。従来の部活動の効果を1ヶ月前及び直前Pre-測定、本事業の効果をPost-測定として、従来との比較を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体平均では、実施前後での変化は殆ど見られなかったが、活用状況によって大きな違いが確認された</li> <li>「活用なし」の生徒においては低下した一方、<b>活用頻度が「3~4回」の生徒では上昇傾向が確認された。</b>特に、行動変容に繋がりがやすいとされる「評価」項目においては、5%水準で有意な上昇があった</li> </ul>
情意領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業が生徒の情意領域（関心・意欲・態度や価値づけ、個性化）の形成に効果的であったか否かを評価するために情意形成評価票を実施。従来の部活動の効果を1ヶ月前及び直前Pre-測定、本事業の効果をPost-測定として、従来との比較を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体平均では、実施前後で若干の低下傾向が見られたが、活用状況別に比較すると、その違いが顕著であった</li> <li>活用頻度が「1~2回」及び「3~4回」の生徒において、実施前後でほぼ横ばいであった一方、「活用なし」の生徒においては、顕著に低下。特に、行動変容に繋がりがやすいとされる「個性化」については、5%水準で有意に低下が確認された</li> </ul>
ライフスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決能力をはじめ、それに求められる創造的思考や意志決定能力等、W H Oの提唱するライフスキル形成に効果的であったか否かを評価するため、ライフスキル測定尺度（山田, 2016）を用いて、事業前後の結果を比較することにより、介入効果を検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には実施前後ともに、「活用なし」よりも活用頻度「1~2回」「3~4回」の方が各ライフスキルが高かった</li> <li>また、前後比較においても、「活用なし」が<b>低下傾向にある一方、活用頻度が高くなるほど、ライフスキルが上昇する傾向が確認された</b></li> <li>特に、<b>批判的思考、創造的思考、意志決定スキルについては、5%水準で有意に上昇しており、試行錯誤の結果が伺える</b></li> </ul>
有用性	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンデマンドの視聴頻度やオンラインスクールの参加頻度等をカウントし、多様なサービスの有用性を確認する</li> <li>事業終了後に、従来の部活動との比較において、本事業の部活インフラ再構築が、生徒にとってどの程度有用であったのかをインタビュー調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインコーチングやデジタルツールを活用することにより、自身の課題を発見し、改善策に繋げていくようなプロセスを経験したことが伺える</li> <li>一方で、「<b>主体性を求められたが、とても難しく感じた</b>」というコメントもあり、従来の部活動とのギャップを実感した生徒もいた。2015年のラグビーW杯後に、某日本代表選手も同様のコメントをしていたが、これまでの日本のスポーツ環境を象徴しているともいえる</li> </ul>

## 5. 実証結果詳細①オンラインサービスの実装（教員に対する効果）

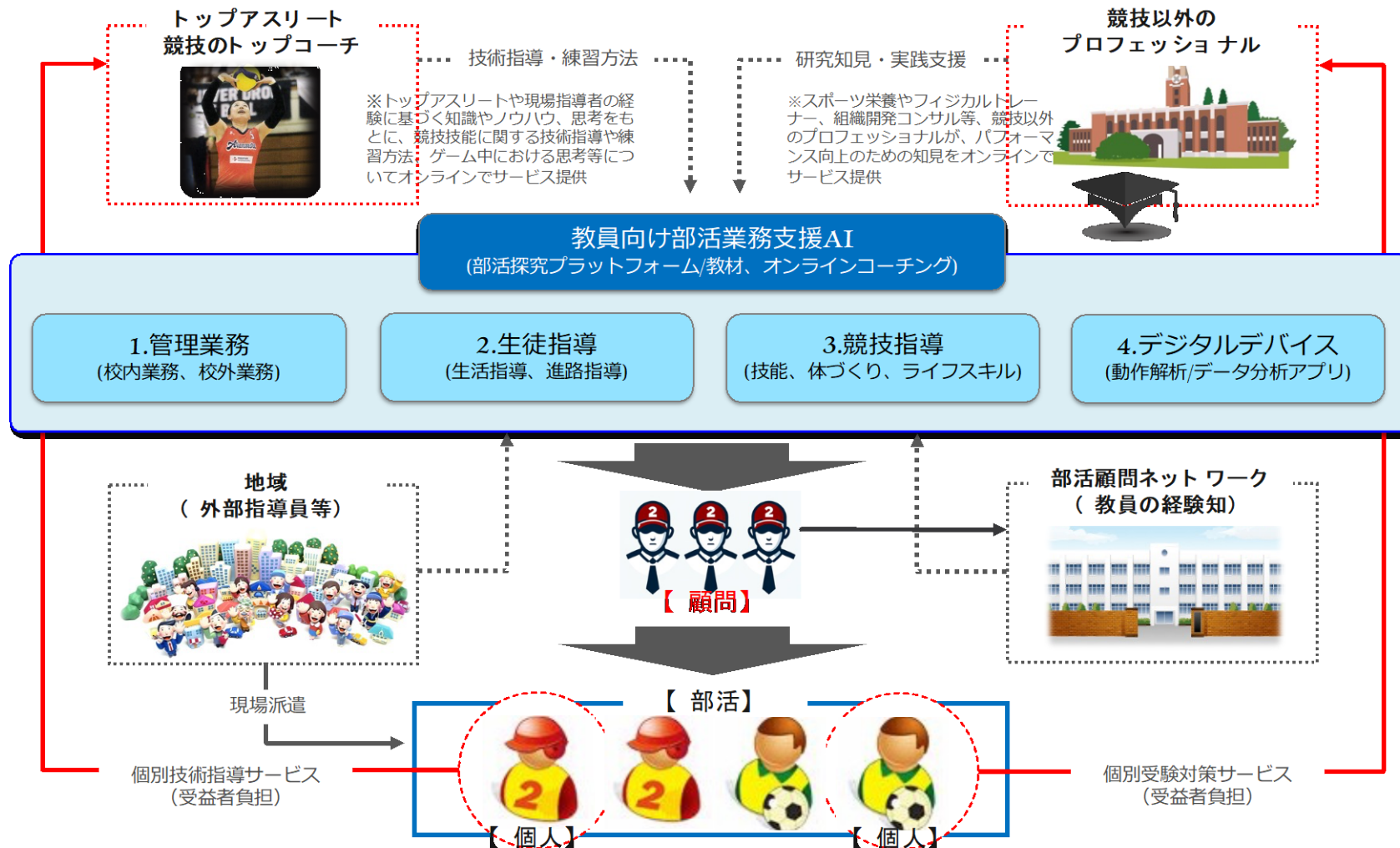
教員にとっては、本サービスは特に専門領域以外（体づくりやチームビルディング等）の内容を指導する場面において、負担が軽減できていると回答した。また、デジタルツールの活用は生徒の主体的取り組みを促進し、時間的・労力的のみならず、質的にも有用であると回答した。一方、本サービスでは管理業務や進路指導等の競技指導以外の部活動業務はカバーしていないため、サービスのさらなるアップデートの余地あり（集計データはAppendix p.41-42）

	効果測定方法	結果・考察
業務負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技指導に関する「技術指導」「チームづくり」「練習計画」及び「その他」の4項目について、従来の負担度と実施後の負担度を10段階（1が最も軽く10が最も重い）で評価してもらい、実施前後で比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員よっての違いはあるものの、全体的には<b>実施前後で負担軽減の傾向</b>が見られる。特に、専門領域外である「チームづくり」においては、全ての教員にとって軽減効果があったが、「チームづくり」に限らず、競技パフォーマンス向上に必要な「身体づくり（筋トレ、食事）」等についても、インタビュー結果からその傾向が確認された</li> </ul>
有用性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業終了後に、従来の部活動との比較において、本事業の部活インフラ再構築が、教員にとってどの程度有用であったのかをインタビュー調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の通り、<b>専門領域外の内容については</b>、自身で勉強をして、準備をして…といった時間や労力が削減されるため、<b>高い有用性</b>を感じて頂けた</li> <li>また、オンラインコーチングやデジタルツールを活用することにより、「<b>生徒一人ひとりが自分と向き合う時間が増え、主体的に取り組む時間が増えた</b>」というコメントに示される通り、<b>時間・労力を軽減する有用性のみならず、質的な有用性も</b>確認された</li> <li>プラットフォームを活用することによる効果は実感されている一方で、<b>プラットフォームを生徒に活用させる「動機付け」や「意欲」をどのように喚起するかという課題</b>も見つかった</li> </ul>



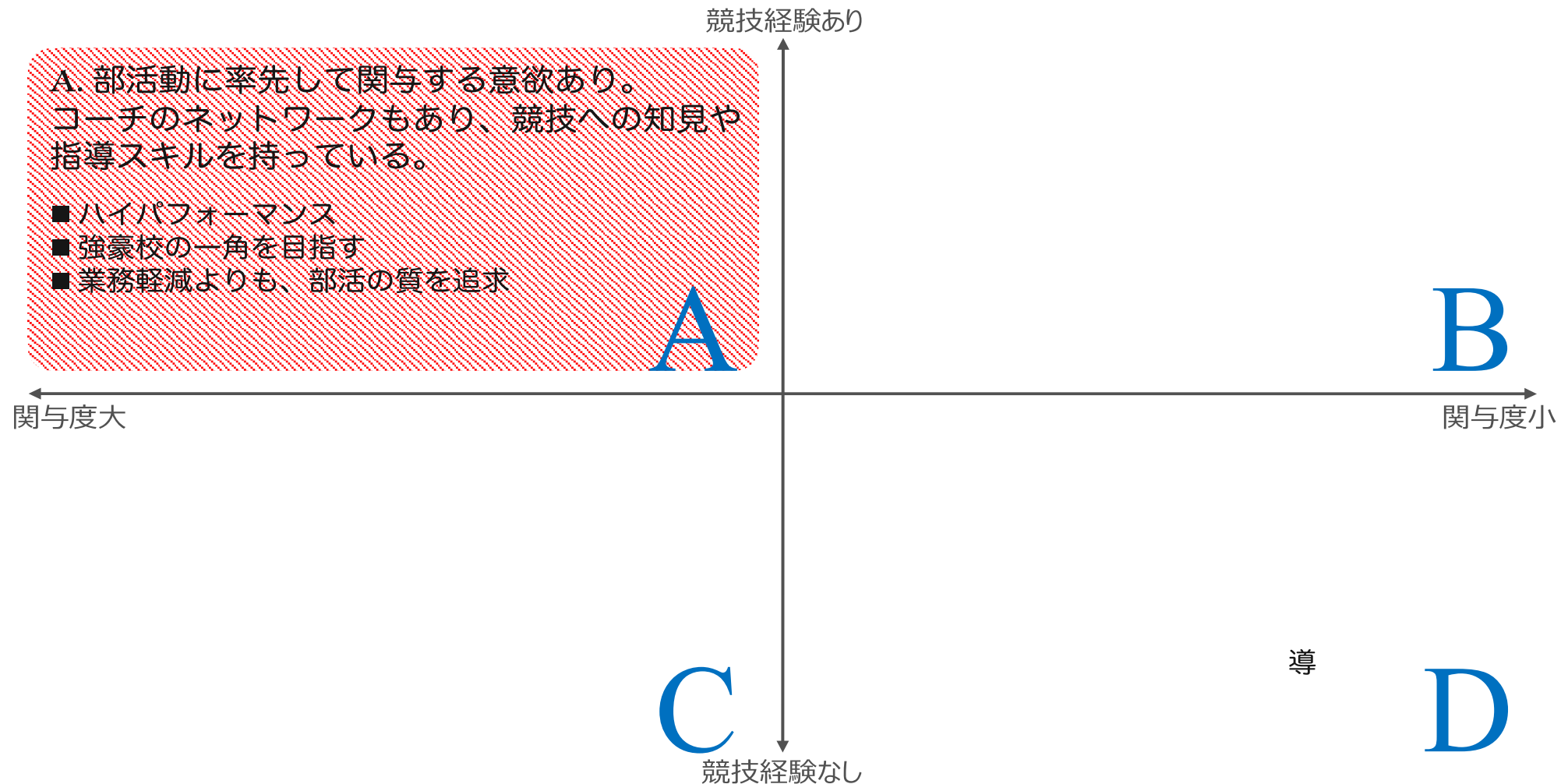
## 5. 実証結果詳細①オンラインサービスの実装（次年度以降の更新サービス概要）

本サービスの実証の結果、教員の部活動業務の負担軽減を図り、かつ生徒の主体的活動を引き出すことにより、これから求められる人材を創出する「新たな部活動」への変革を支援する部活探究プラットフォームを以下のように再構築する



## 5. 実証結果詳細①オンラインサービスの実装（効果的な活用ガイドライン\_タイプ分類）

更新サービスの有効な活用方法は、教員の部活動顧問としての立ち位置によって異なるため、教員のタイプを「競技経験の有無」×「部活に投資できる時間・労力」によって分類する



## 5. 実証結果詳細①オンラインサービスの実装（効果的な活用ガイドライン）

前頁の部活動顧問のタイプごとに、更新サービスに実装予定の部活動支援機能の活用ガイドを作成（タイプごとの活用ガイドはAppendix p.44~47）

業務	機能	機能の意義			タイプ別活用ガイド			
		業務軽減	質の向上	生徒成長	A	B	C	D
	★・・・強く推奨 ○・・・可能であれば推奨（教員の許可・促進） △・・・推奨するが教員の介入がないと使用しない							
管理業務	■年間・月間計画管理：計画立案・更新	◎	○	○	○	★	△	△
	■部員管理（名簿作成）	○	○	*	○	★	○	○
	■試合結果管理：練習試合・公式戦の試合結果	○	○	◎	○	★	△	△
	■チーム目標：目標・行動計画管理（進捗）	○	○	◎	○	★	△	△
	■備品購入・部費管理	○	○	*	○	★	△	△
	■試合マッチング：他行との試合調整	◎	○	*	★	★	★	★
	■部活日報：当日の実績・出欠・体調・ケガ（安全管理）	◎	○	○	★	★	★	★
	■部員通知・コミュニケーション	◎	◎	*	★	★	★	★
	■AI相談・検索	○	○	*	○	○	△	△
生徒指導	■入部者の皆様（部の心得/取り組み方・AO入試案内）：	○	◎	◎	★	★	★	△
	■保護者向けコンテンツ（部の心得/取り組み方・AO入試案内）：	○	◎	*	★	★	★	△
	■AO入試対策コンテンツ：	○	◎	◎	★	★	★	△
	■個人の目標設定/行動計画：	○	◎	◎	★	★	★	△

## 5. 実証結果詳細①オンラインサービスの実装（効果的な活用ガイドライン\_続き）

前頁の部活動顧問のタイプごとに、更新サービスに実装予定の部活動支援機能の活用ガイドを作成（タイプごとの活用ガイドはAppendix p.44~47）

業務	機能	機能の意義			タイプ別活用ガイド			
		業務軽減	質の向上	生徒成長	A	B	C	D
	★・・・強く推奨 ○・・・可能であれば推奨（教員の許可・促進） △・・・推奨するが教員の介入がないと使用しない							
技術指導	■競技別 オンラインコーチング：	○	◎	◎	★	○	○	△
	■競技別 基本動画指導映像：	○	◎	◎	★	○	○	△
	■パフォーマンス分析：	○	◎	◎	★	○	○	△
	■カラダづくりコンテンツ：	○	◎	◎	★	○	○	△
	■ハイパフォーマンスコーチング：	○	◎	◎	★	○	○	△
	■チームづくりコンテンツ：	○	◎	◎	★	★	○	△
	■リーダーズミーティング：	○	◎	◎	★	★	○	△
ツール	■スコアブック（野球）	*	◎	◎	*	*	*	*
	■スコアブック（バスケットボール）	*	◎	◎	*	*	*	*
	■スコアブック（バレーボール）	*	◎	◎	*	*	*	*
	■2画面動作分析アプリ「Pre-Post（プレポス）」	○	◎	◎	★	★	★	△



## 5. 実証結果詳細②自走プランの検討（自治体・学校に対するインタビュー調査）

教員の部活動業務は「管理業務」「競技指導」「進路指導」でほぼ網羅されている。関係者からは、内容的にも料金的にも競争力があるとの反応あり。また、「部活動経験を大学入試に活かす」という観点はユニークであり、並行して部活動の学びや思い出が記録として可視化されると有意義（集計データはAppendix p.43）

### 対象者

### インタビュー結果

大分県教育委員会（体育保健課）

- 教員向けの部活動支援プラットフォームについては、内容的（管理業務支援、競技指導支援、進路指導支援）にも料金的にも魅力的である。
- 県下の全高校に対し、特定の業者のサービスを使わせることはなかなか難しいが、1年かけて試験的に使ってもらいながら、徐々に普及させていくことについては検討できる。

某市役所（スポーツ振興課）

- 部活動経験と入試対策を連結させる点は、特徴的であり大変興味深い。管理業務支援については、中学校部活動の支援にも有用なのではないか。
- 市内の中学校と協調して、1年かけて実証を通じて市内モデルを作っていけると良いのでは。

実証校部活動顧問

- 杵築高校野球部
- 中津南高校野球部
- 大分鶴崎高校バスケット部
- 玖珠美山高校ラグビー部

- プラットフォームの活用方法については、教員の「部活動に対するスタンス」や「競技経験」、「年齢（指導経験）」などによって異なると思うが、「管理業務」「進路指導」「競技指導」の3つの業務支援機能があれば、どの教員にとってもいずれかは有用だと思う。
- 進路指導支援（AO入試対策）については、従来にない観点だったため、最初はピンと来ていなかったが、部活動に対する態度が変容するきっかけにもなる。保護者にこそ、このような取り組みを知ってほしい。
- 他校との交流や他校の活用事例等が共有されるようになると、学びの領域も広がる。
- 将来的には、大学やプロのチームのデータや情報などにもアクセスできるようになると面白い。
- 競技力向上に繋がるコンテンツが蓄積していくと良い。

その他学校教育関係者

- 「部活動経験をAO入試に活かす」という観点は非常に面白い。この文脈においては、部活動を通じて得た「学び」や「思い出」が記録という形で可視化できると、大学入試のみならず、将来に亘って活用できる。

## 5. 実証結果詳細②自走プランの検討（企業に対するインタビュー調査）

企業からの協賛を獲得するには、それぞれの企業の「成長フェーズ」と「業種や立場」、及び本サービスの「成長フェーズ」とを勘案する必要があるが、「部活動改革支援」や「高校部活動生へのアクセス」、「地元地域の活性化」を訴求することで、企業協賛の可能性を示唆

### 対象者

### インタビュー結果

#### 地場の中小企業

- 人口減少社会において、卒業後も地元に残って活躍して欲しいと願う思いは強く、そのような観点から、地元高校生の育成に繋がることであれば、少額の協賛金は惜しまないという企業は多い。
- 協賛に対しては、会社の存在や事業内容を知ってもらう機会があれば良い（地元メディア露出等）。
- 単にスポーツを「勝った」「負けた」の目的のためではなく、将来のことを見据えて、社会が求めている力を養うことを目指して欲しい。そういう意味では、この事業理念や構想には共感するところが多い。

#### 地域を拠点とする企業 (地方紙、地方局)

- 地域振興や地域活性化、地域経済を維持していくためには、中学生や高校生に地元の魅力を知ってもらい、他県への流出を抑えていかなければならない。そのような意味においても、部活動問題は大きな関心事の一つであるが、地域密着という強みを活かした協業の可能性については検討したい。

#### 地域に拠点をもつ企業

- 生命保険会社
- 旅行代理店

- 自治体との協働による新たなビジネスチャンスの創出や地域社会との信頼関係を構築する目的で、支店を構える各地域において、自治体と「包括連携協定」を締結している。部活動問題やスポーツを活用した地域振興などが課題にあがっている自治体もあり、協調できる可能性はある。
- 毎年、自治体に対して、「健康・元気な街づくり」をテーマにした使途不特定の寄付を実施。表向きはCSR活動として行っているが、上記の包括連携協定と同様の目的が本質。そのような形態の支援が望ましい。

#### 部活動と親和性の高い企業

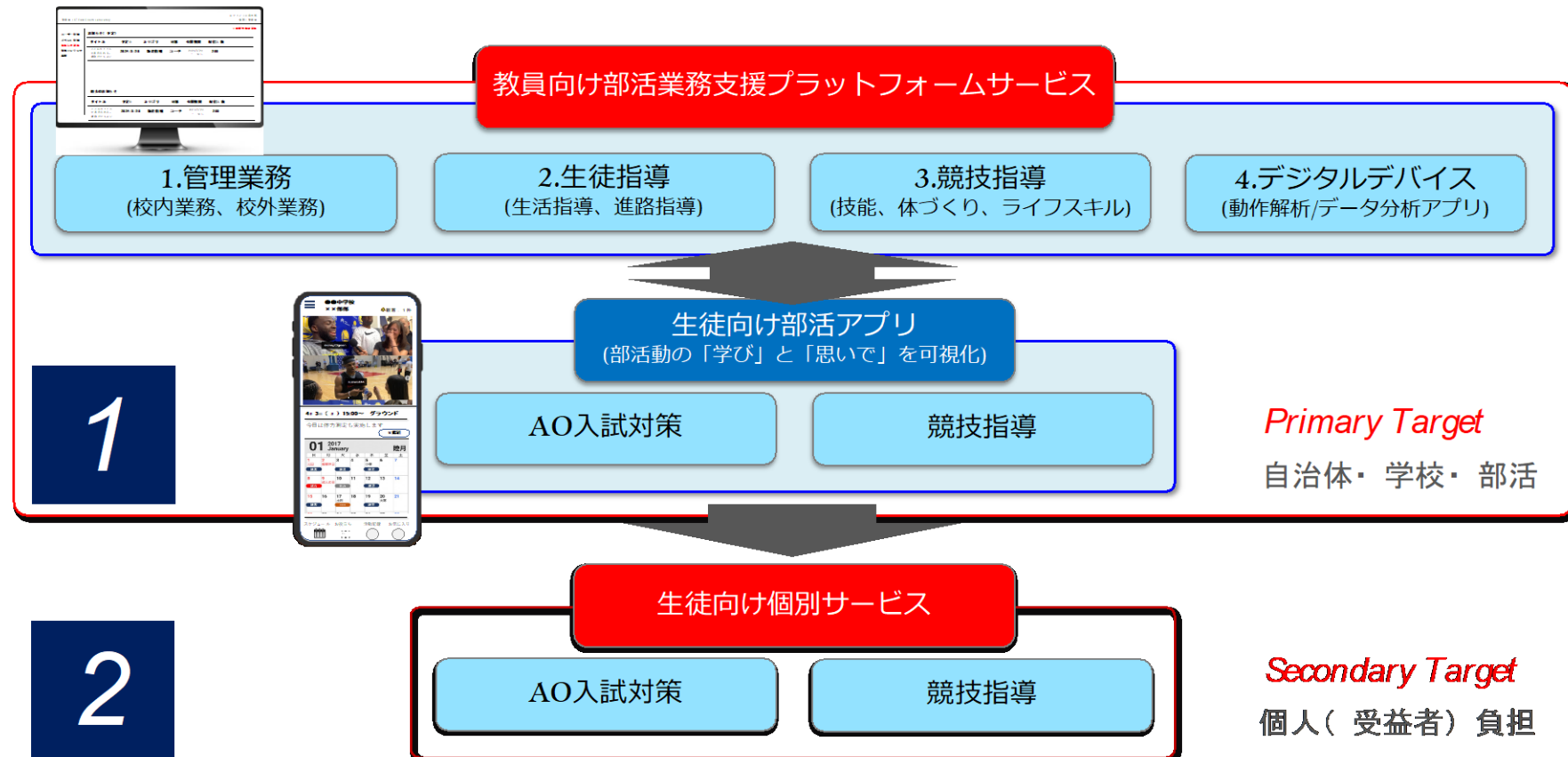
- スポーツメーカー
- 飲料メーカー
- 人材派遣

- 部活動問題については、中学生・高校生という自社サービスの直接的な標的セグメントであることだけでなく、部活動存続が与える市場全体への影響（規模縮小）を勘案すると、市場規模を維持するために何かしらの手を打たざるを得ない。
- メーカーという特性上、最終的には自社商品がどのように消費者の手に届けられるかを考えなければならない。単にCIのための露出というステージではないので、協賛することにより消費者へのアクセスポイントがどのように作られるかが重要。

## 6. 今後の自走・普及プラン（目的・概要） （関連データはAppendix p.48~52）

**競技指導から進路指導まで一貫した、教員向け部活動支援サービスを構築することにより、部活動の教育的意義を担保しながら教員の負担軽減を実現する**

1. 教員向け部活業務支援プラットフォームサービス（教員向け管理アプリ & 生徒向け部活アプリ）
2. 生徒向け部活支援個別サービス（AO入試対策 & 競技力向上）



## 6. 今後の自走・普及プラン（サービス内容）



**1** プラットフォーム利用料  
 個人契約 3,000円/月  
 部活契約 8,000円/月  
 学校契約 80,000円/月

**2** 個別サービス料  
 進路指導 15,000円/月  
 競技指導 提携先料金に従う

### 管理業務支援

顧問の先生・監督・コーチが行わなければならない、数々の①管理業務の軽減・削減、そして管理の②質・利便性の向上を目指したシステム機能の利用が可能



- ・運営日報の作成
- ・チームの目標管理
- ・選手の目標管理 など

### 競技指導支援

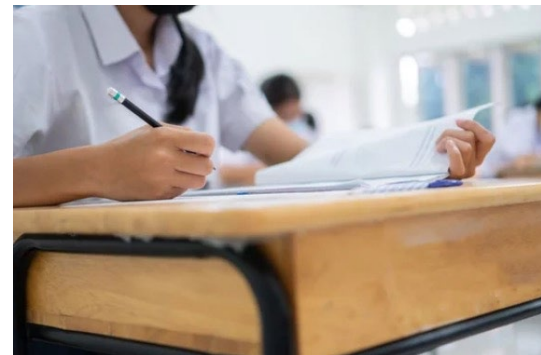
専門家による動画教材やオンラインコーチングで、学びの場を提供。競技への知識力・探究力・モチベーション向上と課題解決力の向上が可能



- ・リーダーズミーティング
- ・ハイパフォーマンスコーチング など

### 進路指導支援

部活をテーマとした「総合型選抜（AO入試）対策」を目的に、デジタル教材やオンラインコーチング、個別指導により、日々の部活を入試対策に生かす



### デジタルデバイス



- ・動画動作解析アプリ（ProPost）（プロポスト）
- ・野球スコアブックアプリ
- ・バレーボールスコアブックアプリ
- ・バスケットボールスコアブックアプリ
- ・野球ラプソードの貸し出し
- ・その他競技別アプリ（他者提携）



## 6. 今後の自走・普及プラン（導入メリット）

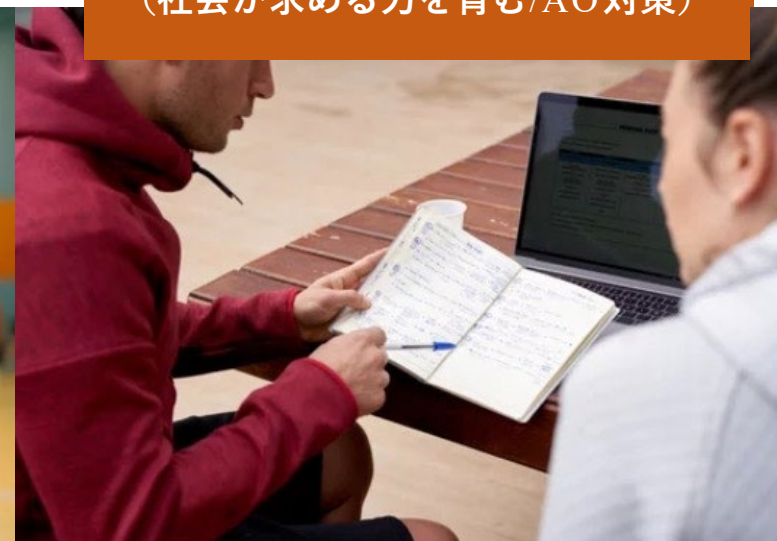
顧問・監督・コーチが  
システムを活用し、オンライン  
コーチングへの参加を承認する



生徒個人が  
主体的にアプリやコーチングの  
機会を活用する



生徒個人が部活を探究する  
（社会が求める力を育む/AO対策）



### 顧問・監督・コーチメリット

- 日常的な部活に関連する業務の軽減・削減
- 競技指導・進路指導の質の向上
- 部活の自走化（生徒主体の部活）による成長成果

### 生徒・マネジャーのメリット

- ライフスキル（生きる力）の習得・向上
- 競技におけるパフォーマンス向上（チーム力強化）
- 部活による進学対策（AO入試・合格）

## (参考) スケジュール

タスク概要	担当	開始日	完了日	2024/1Q			2024/2Q			2024/3Q			2024/4Q			2025/1Q	2025/2Q	2025/3Q	2025/4Q	2026/1Q	2026/2Q	2026/3Q	2026/4Q
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月								
<b>財源確保</b>																							
事業資金調達																							
事業予算確保																							
<b>α版の検証とβ版開発</b>																							
経産省実証事業効果検証																							
プラットフォーム改修																							
管理業務データベース作成																							
進路指導コンテンツ作成																							
β版開発																							
<b>β版による市場調査</b>																							
営業パートナーシップ締結																							
トライアル導入先営業																							
事前アセスメント																							
β版運用																							
事後アセスメント																							
β版改修・メンテ																							
<b>サービス開始</b>																							
導入先営業																							
ファネルプラットフォーム作成																							
ファネル運用																							
プラットフォーム運用																							
個別サービス開発・トライアル																							
個別サービス運用																							
<b>パートナーシップ開拓</b>																							
ニーズアセスメント																							
事業協業者獲得																							
事業スポンサー獲得																							

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## (参考) オンラインコーチング専門コーチ一覧

競技力向上	キャリア支援	体づくり
<p>【野球に関する技術指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 片山宗巨（プロコーチ/野村ID野球の生みの親）</li> </ul>	<p>【チームビルド・リーダーシップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山羽教文（株式会社STEAM Sports Laboratory代表）</li> </ul>	<p>【フィットネストレーニング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海江田晃（全米アスレティックトレーナーズ機構公認AT、静岡ブルーレブス所属）</li> </ul>
<p>【バスケットに関する技術指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中田和秀（プロコーチ、株式会社ERUTLUC所属）</li> </ul>	<p>【目標設定・タイムマネジメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山羽教文（株式会社STEAM Sports Laboratory代表）</li> </ul>	<p>【スポーツ栄養】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 長島未央子（公認スポーツ栄養士、管理栄養士、株式会社KAGO食スポーツ所属）</li> </ul>
<p>【ラグビーに関する技術指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 岸岡智樹（現役ラグビー選手、クボタスパークス東京ベイ所属）</li> <li>■ 石川安彦（プロコーチ、株式会社FIELD OF DREAMS所属）</li> </ul>	<p>【AO入試対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新堀雄介（関東学院高校教諭、株式会社Qスペース代表）</li> </ul>	

## (参考) AO入試対策オンラインオーチング概要



1. 部活動は探究的にAO入試と相性がよい
2. 大学入試の現状
  - 早稲田大学、推薦入試比率を2026年までに60%へ
  - 大学入試制度別の入学者割合
3. 総合型選抜の種類（探究型、小論文学力型、実績型）
4. 総合型選抜で合格するためのポイント
  - 自身の活動を充実させる
  - アドミッション・ポリシーとのマッチング
5. 合格までの道程
  - エントリーまでの準備
  - 合格までの年間計画
6. 部活動を素材に探究する
7. 活動記録（探究記録）を残す
8. 合格する志望理由書とは

## (参考) 部活動業務に関する教員のニーズアセスメント

### 【管理業務】

- 練習試合等のマッチングに時間がかかる（日程、場所、チームのレベル調整などにかかり手間がかかる）。
- 学外監督会議は、必ずしも毎回集まって実施する必要はないかもしれない（オンラインでも可能）。
- 従来は手書きの日報を提出してもらっている。
- 年間計画や年間の指導計画等、書類づくりが大変。報告についても、本来はしなければならないが、実際にはできていない。

### 【競技指導】

- ゲーム分析をしたいが、なかなか時間が取れない。1つの試合を分析するのにかなりの時間を要するので、分析のポイントだけでも知りたい。
- これまで自分が練習計画やスケジューリングをしていたので、徐々にキャプテンに練習メニューの組み立て等を権限委任していきたい。
- 知識が蓄積する仕組みにして欲しい。
- 競技経験のない教員に向けては、大変有効だと思う。

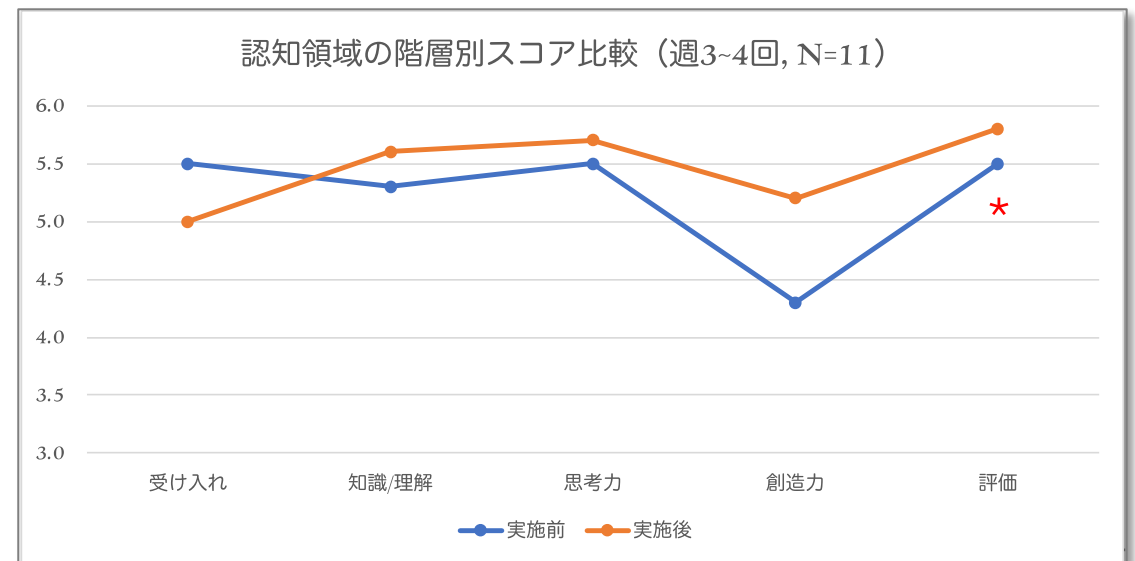
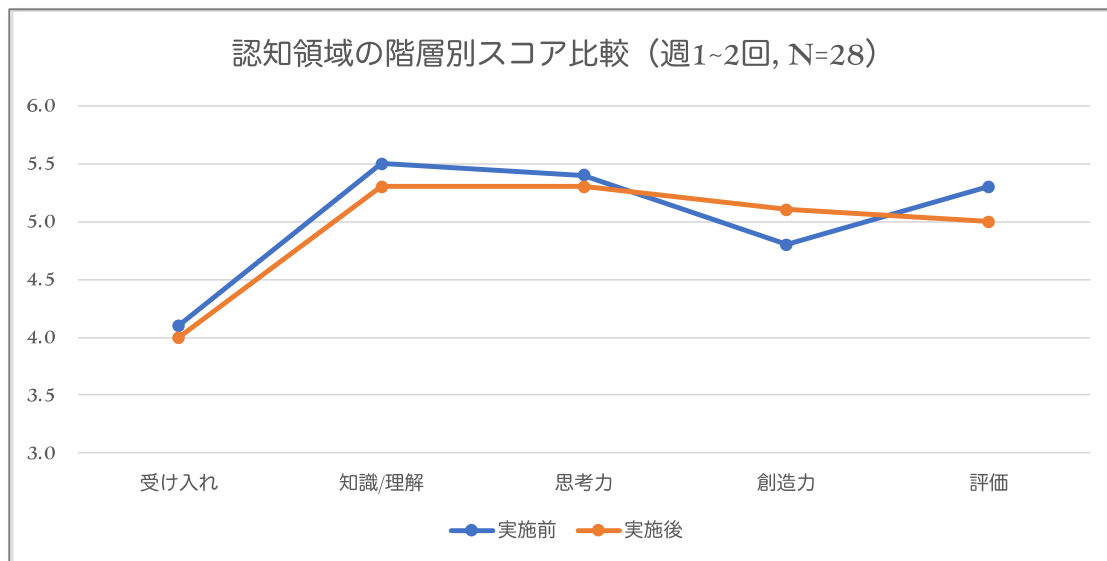
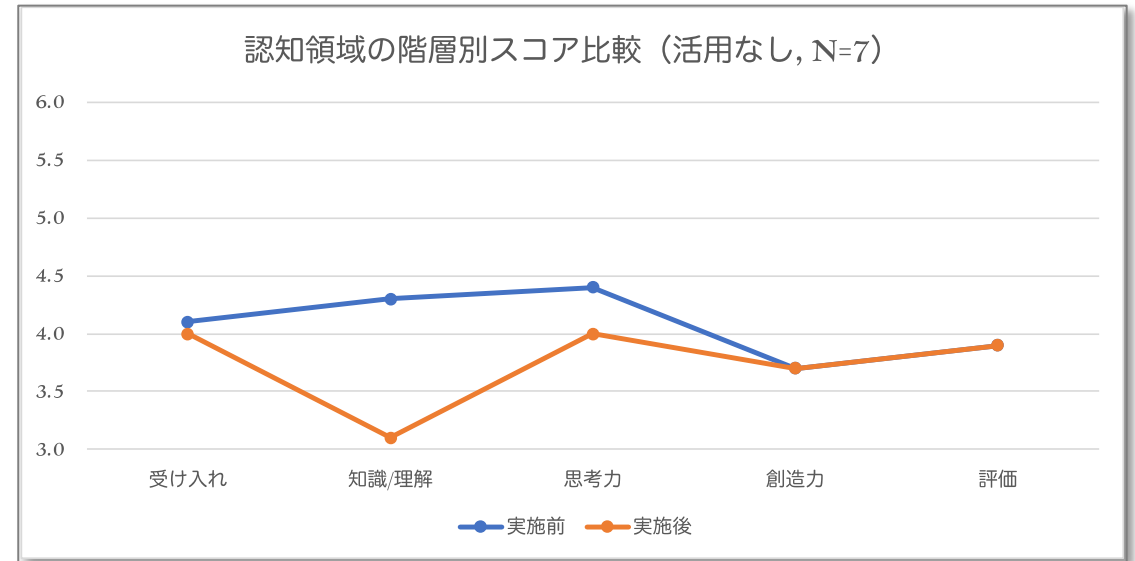
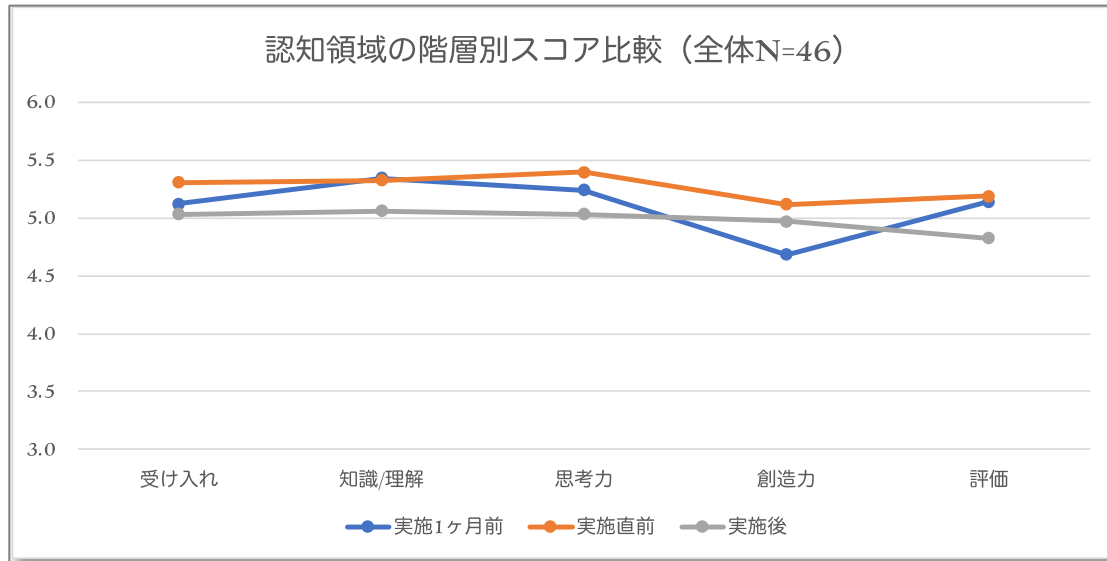
### 【進路指導】

- AO入試対策については、保護者にこそ聞いてほしい。
- AO入試で進学を考えている生徒にとっては、休みの日でも参加するのは…。
- 部費をもらっているため、進路指導や生活指導には拘らなければならない。

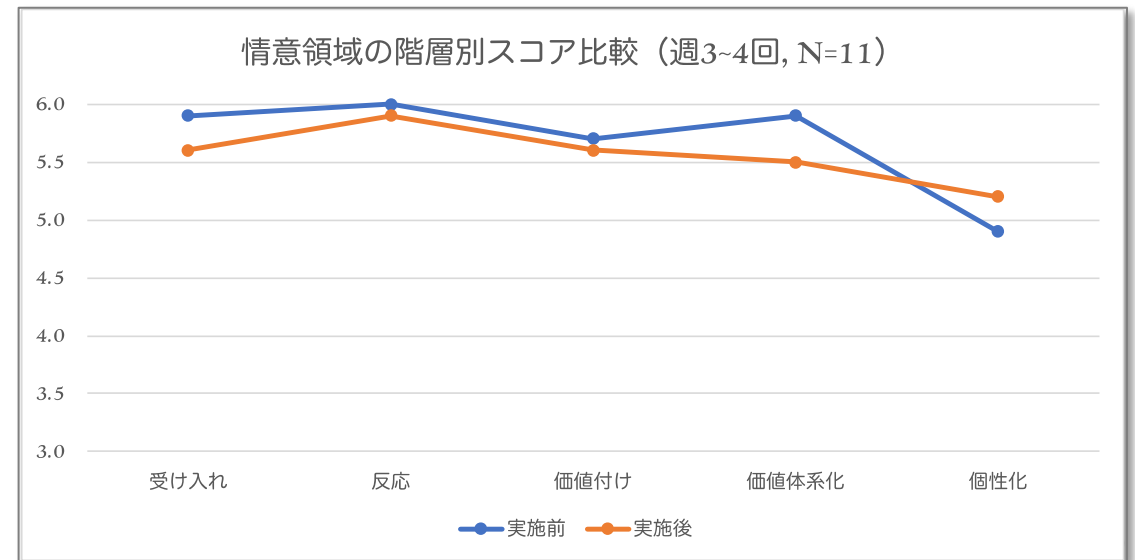
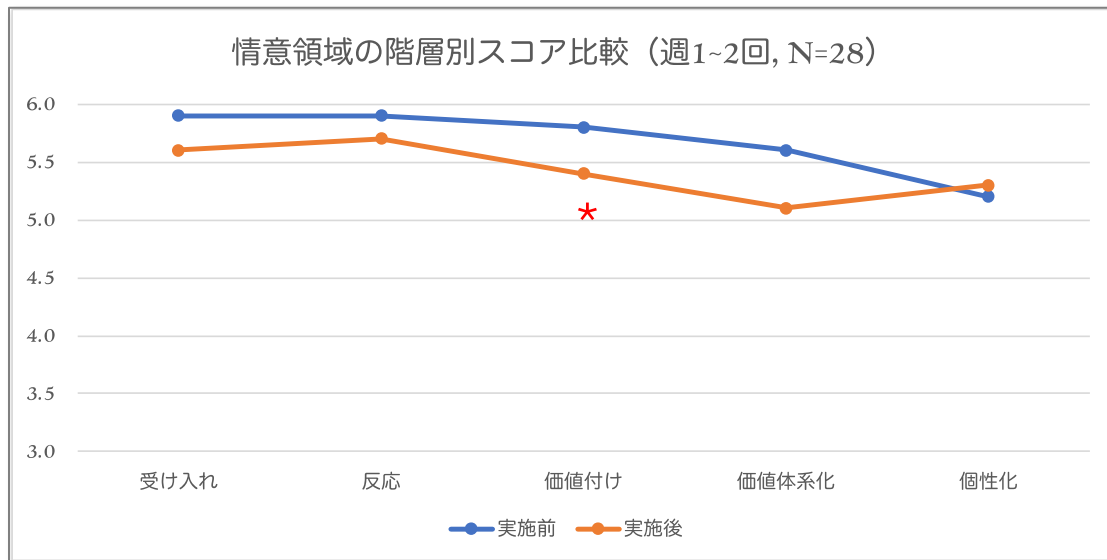
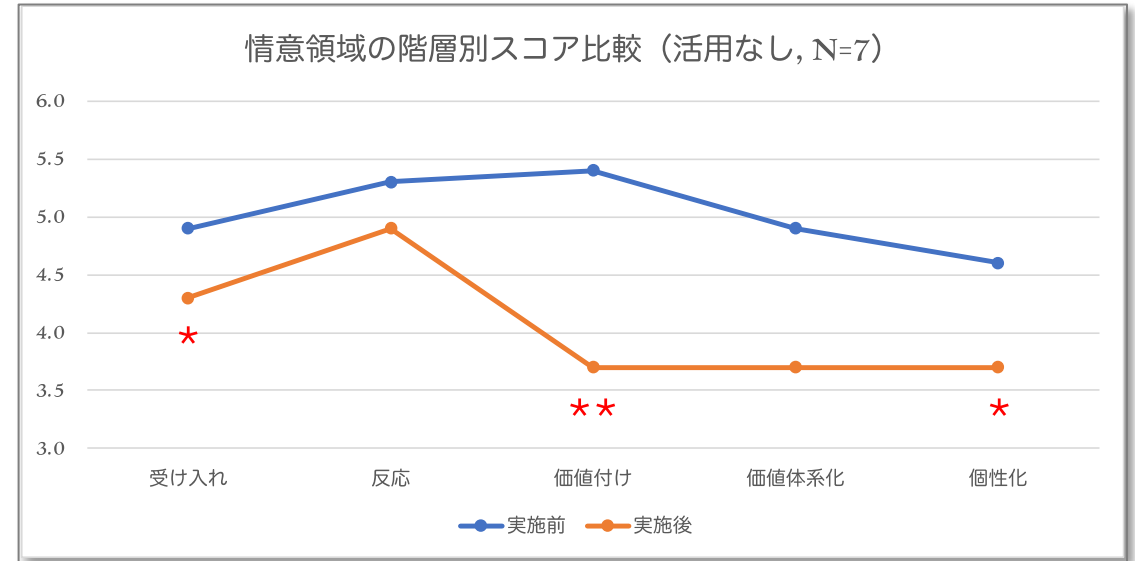
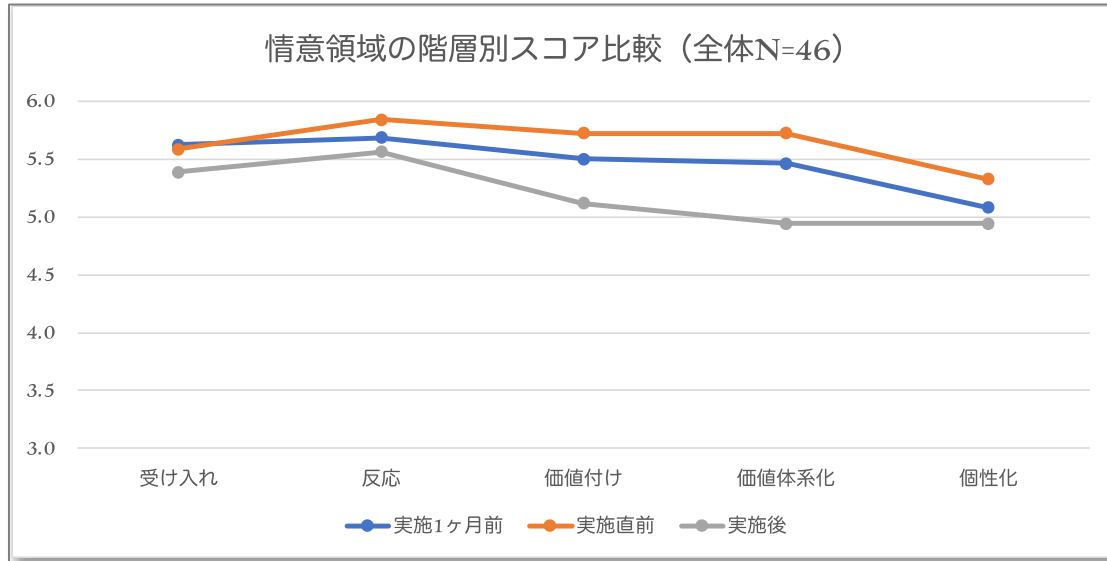




## (参考) 生徒に対する効果 (認知効果)



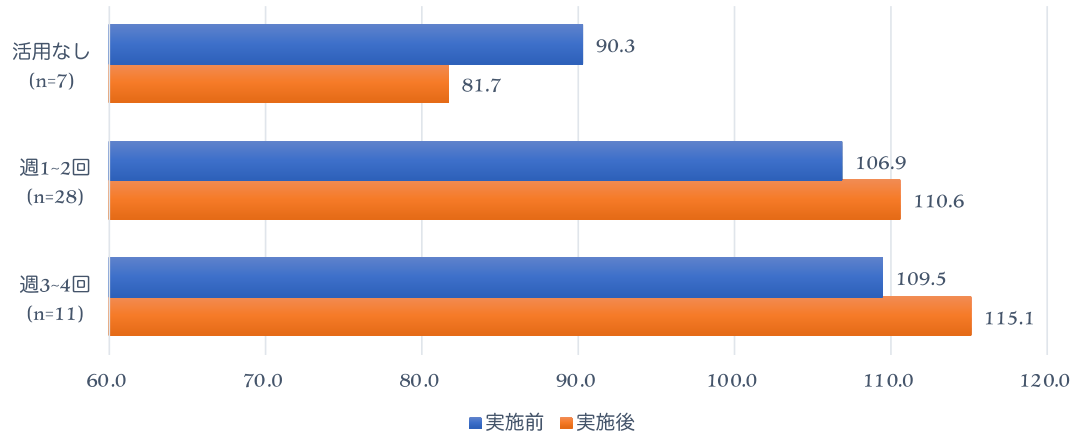
## (参考) 生徒に対する効果 (情意効果)



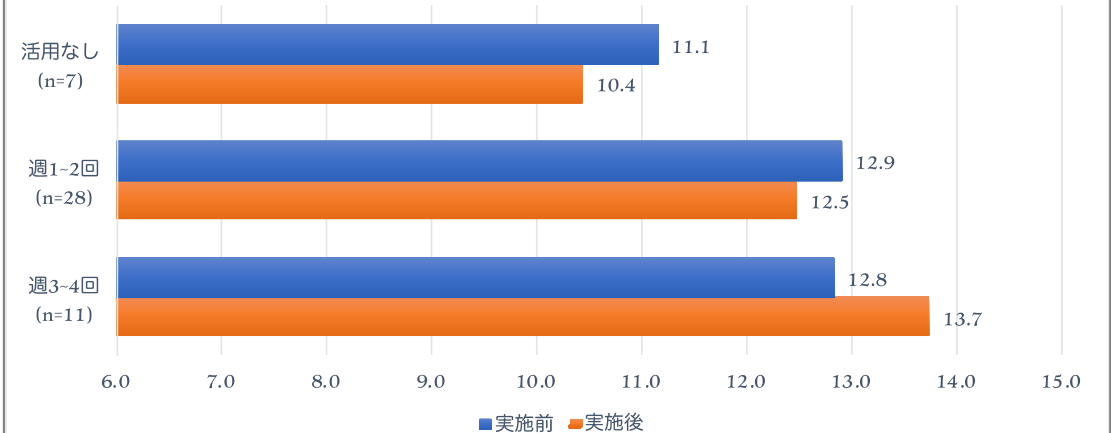


## (参考) 生徒に対する効果 (ライフスキル)

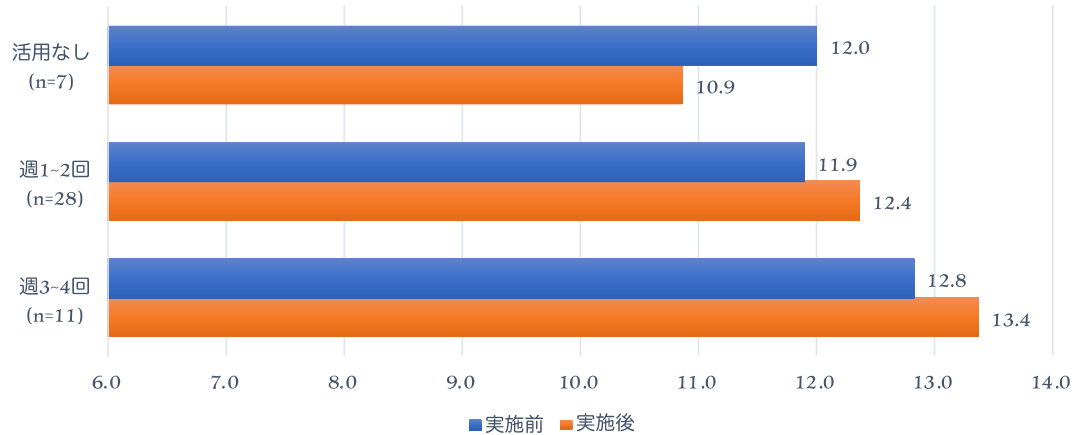
活用頻度別ライフスキル前後比較 (N=46)



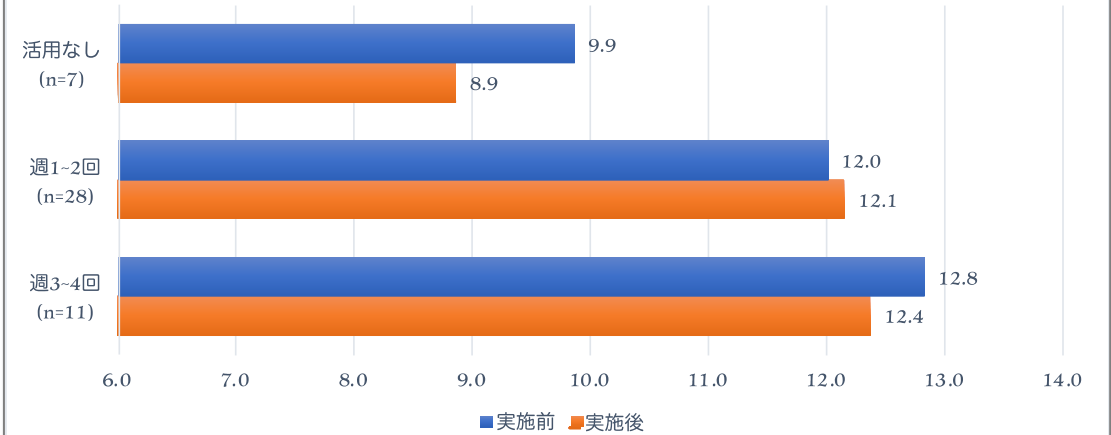
活用頻度別自己認識スキル前後比較 (N=46)



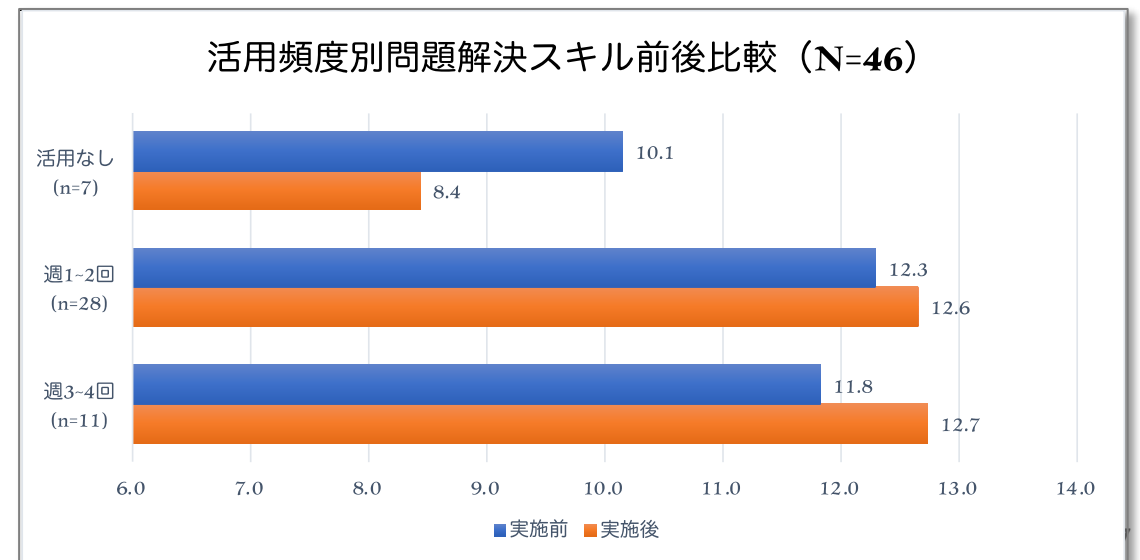
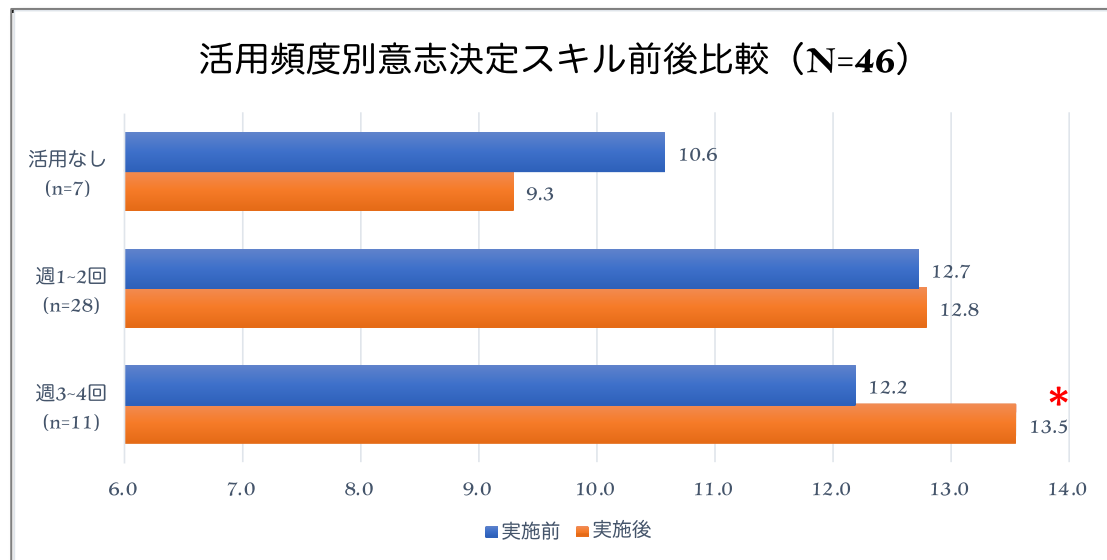
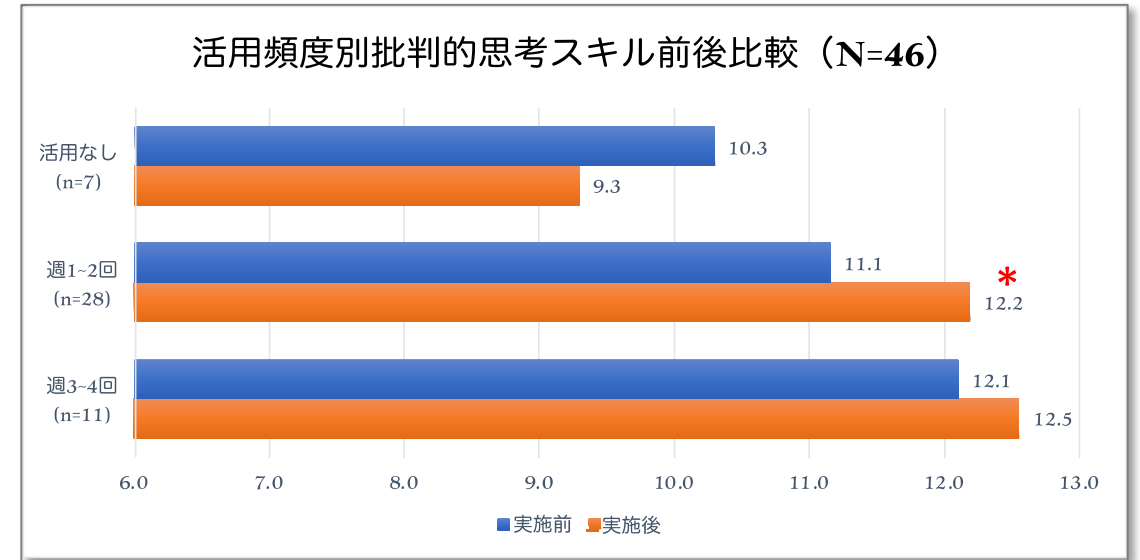
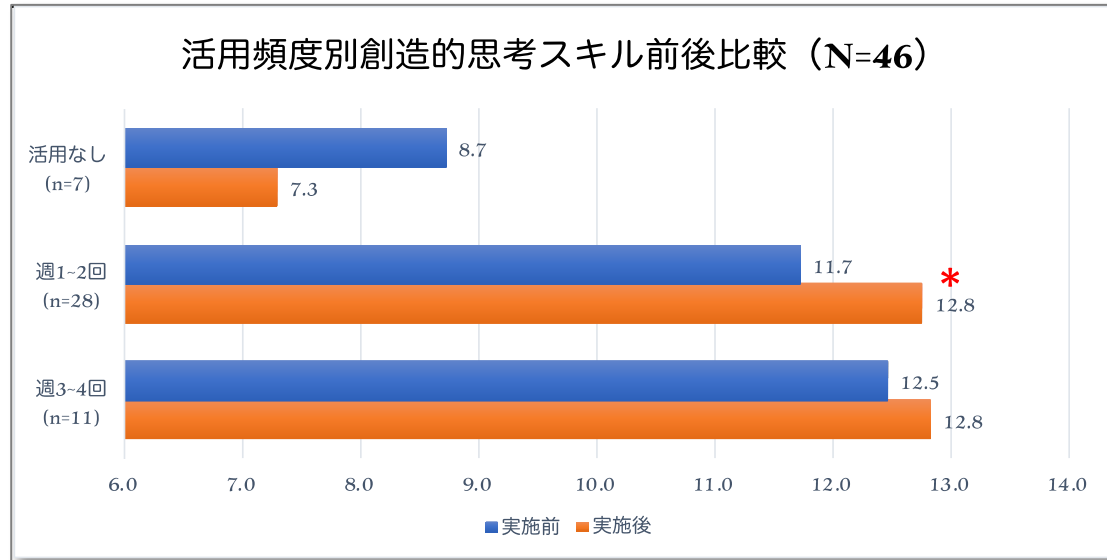
活用頻度別共感性スキル前後比較 (N=46)



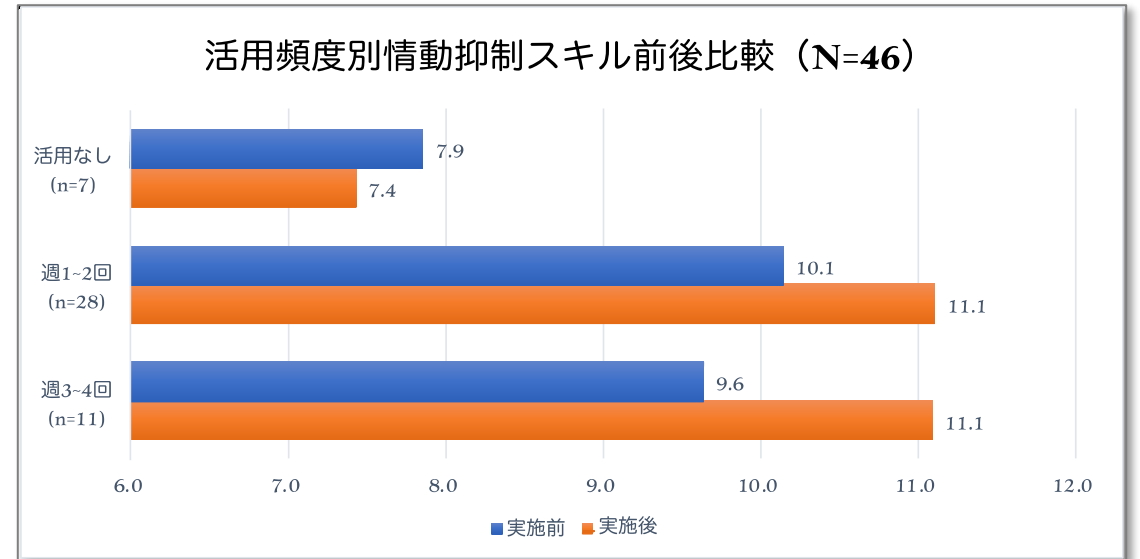
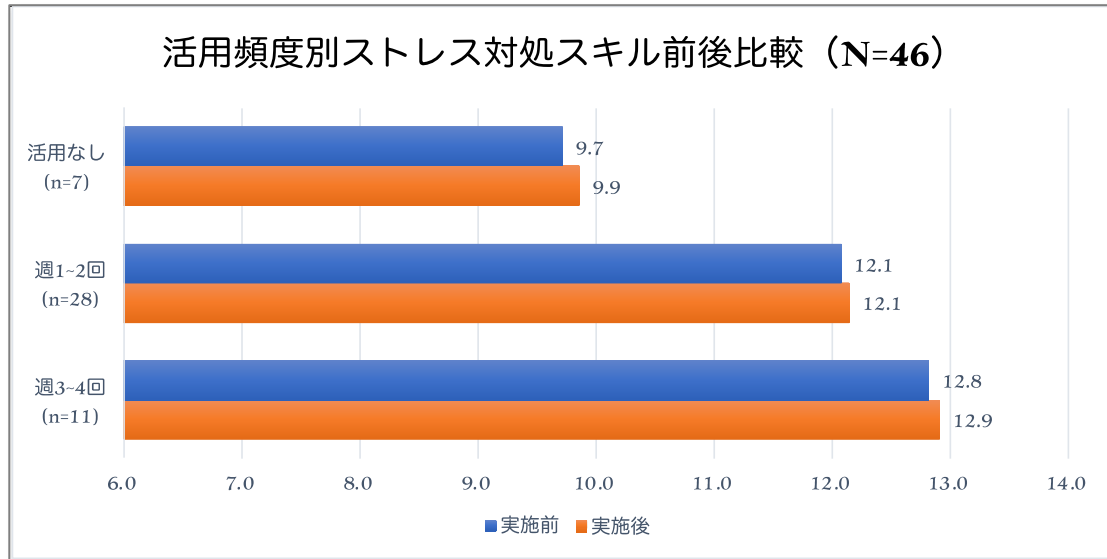
活用頻度別対人関係スキル前後比較 (N=46)



## (参考) 生徒に対する効果 (ライフスキル\_続き)



## (参考) 生徒に対する効果 (ライフスキル\_続き)



## (参考) 参加した生徒の感想

- どうやったら上手くなれるか、勝てるようになるかをしっかりと考えるきっかけになって、とても力になった。
- 今までしたことのない経験ができたので、この経験をこれからの私生活や部活動で生かしていきたいと思った。
- オンラインコーチングはとても楽しかったし、今後の練習にも活かせそうなこともかなり多く学べたので、引き続き参加してみたい。
- 主体性を求められたが、とても難しく感じた。
- 今回の活動を通して、これまで約10年間続けてきた野球というスポーツの見方が変わり、練習の取り組み方が変わった。秋ベスト4という結果を受け、このオフシーズンにこのような貴重な経験ができたことで、自分達にとっても自信がついたと思う。教わったことを春、そして夏の大会、さらにこの先の人生に活かしていきたい。
- 技術的な部分や私生活の過ごし方や、人間性など、様々な方向からオンラインコーチングをしていただき、とても楽しかったです。マネージャーとして、選手を支援しながら夏を勝ち抜いていきたいです。
- こんなに便利なことは初めてだった。このような機会を増やして欲しい。
- 部活探究オンラインの活動を通じて、毎週1時間半貴重なことが学べたので良かった。学んだことは、これからの学校生活や部活動に活かしていきたい。
- 今まで知らなかったことをたくさん知ることができて、今後の参考になった。
- 自分で振り返ってみる、考えてみるという機会が増えて、いろんな場面での判断がしやすくなった。





## (参考) 参加した生徒の感想 (続き)

- 初めての経験で、何もかもが新鮮で楽しかったし、知識や戦略などとても参考になった。また、このような機会があれば、積極的に参加していきたい。
- オンラインコーチングを受けた次の日の部員のプレーや、考え方が変わっていることに嬉しくなった。
- とても分かりやすかった。特に、食育オンラインコーチングを受けて、食をスポーツにどう活用するべきかを学んだ。とても良い学びになった。
- 今回の部活探究で電子スコアを試してみて、チームのことや相手チームのことを分析することができた。春の大会に向けて分析結果をもとに、自分のチームに足りていない部分を明らかにして、日々練習に取り組んでいきたい。
- 今回の活動を通して、部員が自分の課題をしっかりと見つけることができていると思うので、今までの部活より充実したものになっていたと思う。
- 部員との関係性もより深まり、充実した部活動を行えるようになった。
- 自分の苦手なところや足りないところなどをデータとして捉えられ、今まで曖昧だった具体的な解決方法がクリアに見えて、解決まで自分の力でできるようになった。
- 部活探究オンラインでは、自分達で何かを成し遂げるということを深く感じさせられた。技術習得の方法をコーチから教わり、それを自分達で深めていくことが大切だと実感した。先進的なものも取り入れてもらい、とても有意義な活動だった。
- 現在のチームの長所や短所をチームメイト全員でミーティングをして意見を出し合うことができた。これからチームがさらに成長するための方法なども共有することができ、とても有意義な経験になった。



## (参考) 実施後の教員の感想

- オンラインコーチングの機会は、1~2回/週くらいが適当。
- 練習や試合の場面場面で、一人ひとりが考える機会が増えた。
- オンラインコーチングはとても楽しかったし、今後の練習にも活かせるようなこともかなり多く学べたので、引き続き参加してみたい。
- 練習に取り組む態度が明らかに変わった（自分のことは勿論、お互いに観察しあってフィードバックするなど良い傾向が見えた）。共通意識が持てるので、同じ基準でチェックができる。
- 映像データは蓄積していけるので、生徒には積極的に活用してもらいたい。
- 体を動かすことだけが練習ではないと考えれば、従来とは異なる部活動として、非常に良い機会だった。継続して使っていきたい。
- 食事やトレーニングなどの専門分野に関して、自分で学習して、さらに指導するレベルまでの学習時間がいらなかったため、時間が有効に活用できる。
- スコアブックやラプソードを活用してデータを計測して自分で分析できたのは非常に良い経験になった。特にラプソードは、1球ずつ確かめながらできるので、生徒の考えるきっかけになった。
- 非常に可能性を感じる取り組みであった。地域格差をも解消する、とても意義のある取り組みだったと思う。





## (参考) 教員向け業務負担に関するアンケート結果

学校名	役職	競技 専門性	関与度		業務負担				その他	
			事前	事後	業務内容	負担度_前	負担度_後	状態_前		状態_後
杵築	野球部 監督	*1 3	*2 4	4	技術指導	*3 4	2	ポジションごとの指導が行き届かない	一人ひとりが自分に向き合う時間が増えて、一斉指導によるやらされ感がなくなり主体的になった	これから多くのコンテンツが増えていき、各学年で対応できるような内容が増えることを期待します。
					チームづくり	5	1	基本的な計画が成り立っていない	全体的に主体的取り組みが増えた	
					練習計画	5	1	練習内容が固定化している	基本計画をもとに、状況に応じた練習ができるようになった	
					その他	4	5	どうしても時間が長くなる	オンライン講座も練習と捉えれば、その分の時間は減った	
中津南	野球部 監督	3	4	4	技術指導	1	5	新しい知識を得ようと思うと時間がかかり、時間が確保できない	個別ニーズに応えるためには一人では時間が足りないため、その点においてはかなり負担が軽減された	今回の実証事業では至らない点が多々あったかと思いますが、今後も改善を続けてまいります。今後ともよろしくお願いたします
					チームづくり	5	1	練習量との兼ね合いを考えると、定期的に行えないので日々の指導になる	外部の指導が関与することにより、生徒の本音の意見が出たのではないかと思います	
					練習計画	3	4	その他業務との兼ね合いを考えると、計画を立てるのが難しい		
					その他	3	4		練習を休んでオンライン指導に切り替えたことにより、負担が軽減された	
大分鶴崎	バスケ部 監督	4	4	4	技術指導	5	8	教えてもやらないことも多く、できることしかしなないため時間がかかる	2年生部員の総意で「自走する部活」に参加すると決めましたが、全く参加する様子がなく、やはり向上心は口だけだったとわかった	このような消極的なチームもあるのだということもサンプルかと思っています。ただ、こちらは部員任せでやると決めていたので殆どノータッチでした。
					チームづくり	7	5	チーム内の人間関係やものの言い方など	能動的に動くチームであれば、プロの助言も刺激になると思う	
					時間的拘束	10	10	試合の遠征の日は1日がかかりとなり、時間的な拘束はかなりのある	引率は必要なので、そこが改善しないと負担は軽減しない	
玖珠美山	ラグビー部 監督	4	4	4	技術指導	3	3	特になし	動作解析ツールを活用することにより、指導ポイントの抽出や負担が減った	非常に可能性を感じる取り組みに参加させていただいて、ありがとうございました。地域格差をも解消する、非常に価値あるものだと思います。大変お世話になりました。
					チームづくり	8	1	長期的な計画に基づいて行っていないような気がする	オンラインコーチングにより、負担がなくなった	
					練習計画	3	3	特になし	トレーニングポイントが明確になり、計画見直しが楽になった	
					その他	3	4	体づくりがうまくいっていない	プレーイメージの共有に要する時間と労力が大幅に減少した	

\*1...競技の専門性を4分類 (1:競技について全く詳しくない, 2:競技についてあまり詳しくない, 3:競技経験がある, 4:当該競技の指導者資格を持っている)

\*2...部活動関与度を4分類 (1:ほとんど関与していない, 2:一部だけ関与している, 3:必要に応じて関与している, 4:全てに関与している)

\*3...部活動業務における負担度を10段階で主観的に評価 (1:負担最小~10:負担最大)

## (参考) 次年度以降の更新サービスについての感想

- 試合のマッチングは非常に興味がある。
- 対戦チームとの繋がりを作り、交流できるようにしたい。
- 管理系のシステムを組み立てようとしているが、デイリーレポート等の機能は非常に有用である。生徒個人の1日のスケジュールリングができるようになっていないと有難い。出欠確認機能も欲しい。
- 現状、LINEアプリで状況共有しているが、学校現場においてはLINEアプリの使用はグレーなので、チーム内の連絡通知はアプリで一元化した方が良い。
- 大学の情報を知らない生徒が多いため、大学部活動の状況を知れると有難い。気になる大学を登録したりできると良い（大学側にもメリットがあるのでは…）。
- プラットフォームを導入したチーム同士が活動を共有できる機能が欲しい。
- プラットフォームの活用方法については、教員の「部活動に対するスタンス」や「競技経験」、「年齢（指導経験）」などによって異なると思うが、「管理業務」「進路指導」「競技指導」の3つの業務支援機能があれば、どの教員にとってもいずれかは有用だと思う。
- かなり充実した内容であり、部活動単位で月額5,000円～10,000円であれば、喜んで導入したい。



## (参考) 教員タイプ別プラットフォーム活用ガイド (A)

※教員タイプについては、p.21のタイプ分類表をご参照

タイプ	「競技経験あり」 × 「部活動関与度大」	
教員特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動に率先して参加する意欲があり、部活を持つこと自体にはストレスはないタイプ</li> <li>・ 競技コーチ同士のネットワークもあり、競技への知見や競技指導スキルを持っている</li> </ul>	
チーム特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その競技の強豪校として、または競技においてより高いレベルでパフォーマンスを発揮させるための練習をしている</li> <li>・ 高みを目指すことでのみ、得られる教育的価値が得られることを目指している</li> <li>・ 練習や生活指導も厳しめに行う傾向にある</li> </ul>	
活用ガイド	業務軽減というよりも、“部活動の質”を高める視点で活用する。一部の業務を生徒へ委任し、生徒の自立・自活ツールとして活用したり、パフォーマンスを高めるための探究教材として、新たなツールの利用やオンラインコンテンツ及びオンラインコーチングの活用を促す	
	管理業務	・ 他校との試合マッチング、部活日報、部内コミュニケーション等、部活管理に有用
	進路指導	・ 日々の部活日報や目標管理、行動計画の進捗などを活用し生徒指導を行う
	競技指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーニングや食事指導など、専門領域外コンテンツを有効に活用する</li> <li>・ 自身の技術指導の予習として、生徒の活用を促進する</li> </ul>
	デジタルツール	・ スコアブックなど、競技毎に適したデジタルデバイスは、チームとしての試合分析、個々のパフォーマンス分析に役立てられる

## (参考) 教員タイプ別プラットフォーム活用ガイド (B)

※教員タイプについては、p.21のタイプ分類表をご参照

タイプ	「競技経験あり」×「部活動関与度小」	
教員特徴	・できれば強豪クラスまで競技力を高めていきたいが、部活以外の校務等による時間的制約や予算的制約により思うように関与できない状況を抱えている	
チーム特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力としては中堅レベル</li> <li>・練習や生活指導も厳し目に行う傾向にあるが、基本的には生徒たちの主体性を重んじる</li> </ul>	
活用ガイド	基本的に計画づくりや練習方法など、内部の仕事は選手やマネージャーに委任していきながら、生徒と一緒に効率よく全体のマネジメントを実施するために、部活プラットフォームを活用する。練習の量や質で強豪校に劣る部分を競技の専門コンテンツだけでなく、カラダづくり、チーム力向上などのコンテンツを有効活用し、効率よくチーム力を高める。	
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画・月間計画や目標などをシステムに登録し、生徒自身の計画づくりなどを支援・承認する</li> <li>・チーム目標の共有から、備品管理などのツールを活用し、効率化を図ることにより部活の質を高める</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の部活日報や目標管理、行動計画の進捗などを活用し生徒指導を行う</li> <li>・生徒が部活を主体的に行えるよう、1つの目的としてAO入試対策コンテンツなども有効に活用する</li> </ul>
	競技指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングや食事指導など、専門領域外コンテンツを有効に活用する</li> <li>・技術指導の要点を確認するために、オンラインコーチングやオンデマンド教材を活用する</li> </ul>
	デジタルツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作分析アプリケーションで、動画撮影・分析を部活動の1つの練習として取り入れる</li> </ul>



## (参考) 教員タイプ別プラットフォーム活用ガイド (C)

※教員タイプについては、p.21のタイプ分類表をご参照

タイプ	「競技経験なし」×「部活動関与度大」	
教員特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の競技力を高めるというよりは、部活を通じてより多くの学びを得られたら良いと考える</li> <li>・チームの勝利よりも、生徒が主体的・自主的であることを重んじる</li> <li>・努力すれば勝つこともあり、努力せずに負けることは、当たり前の結果として、部活動の結果を生徒指導に役立てる</li> </ul>	
チーム特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力としては中堅レベル</li> <li>・基本的には生徒たちの主体性を重んじる</li> </ul>	
活用ガイド	全体の計画づくりや練習方法などは設計するが、基本的な部活動の仕事は選手やマネージャーに任せ、部活プラットフォームを上手に活用して、業務軽減をしていく。生徒指導に役立つツールやコンテンツを積極的に活用	
	管理業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリを利用することで、日々の日報管理などから、部活動の内容や出欠管理・体調管理などをチェックする</li> <li>・試合マッチングや部員コミュニケーションなどを活用し、円滑な部活動の運用を目指す</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が部活を主体的に行えるよう、1つの目的としてAO入試対策コンテンツを有効に活用する</li> <li>・個人の目標設定や行動計画をチェックして、日々の指導に役立てる。</li> </ul>
	競技指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部員が必要と考える練習やコンテンツを利用できるように環境を整える (オンライン部活利用の際の帰宅許可やチームでの参加利用など)</li> <li>・チームのつくり方など、チーム状況に合わせ必要なコンテンツを利用するよう促進する</li> </ul>
	デジタルツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作分析アプリケーションで、自分のパフォーマンスに対する課題発見・改善方法の検討など、探究ツールとして活用する</li> </ul>

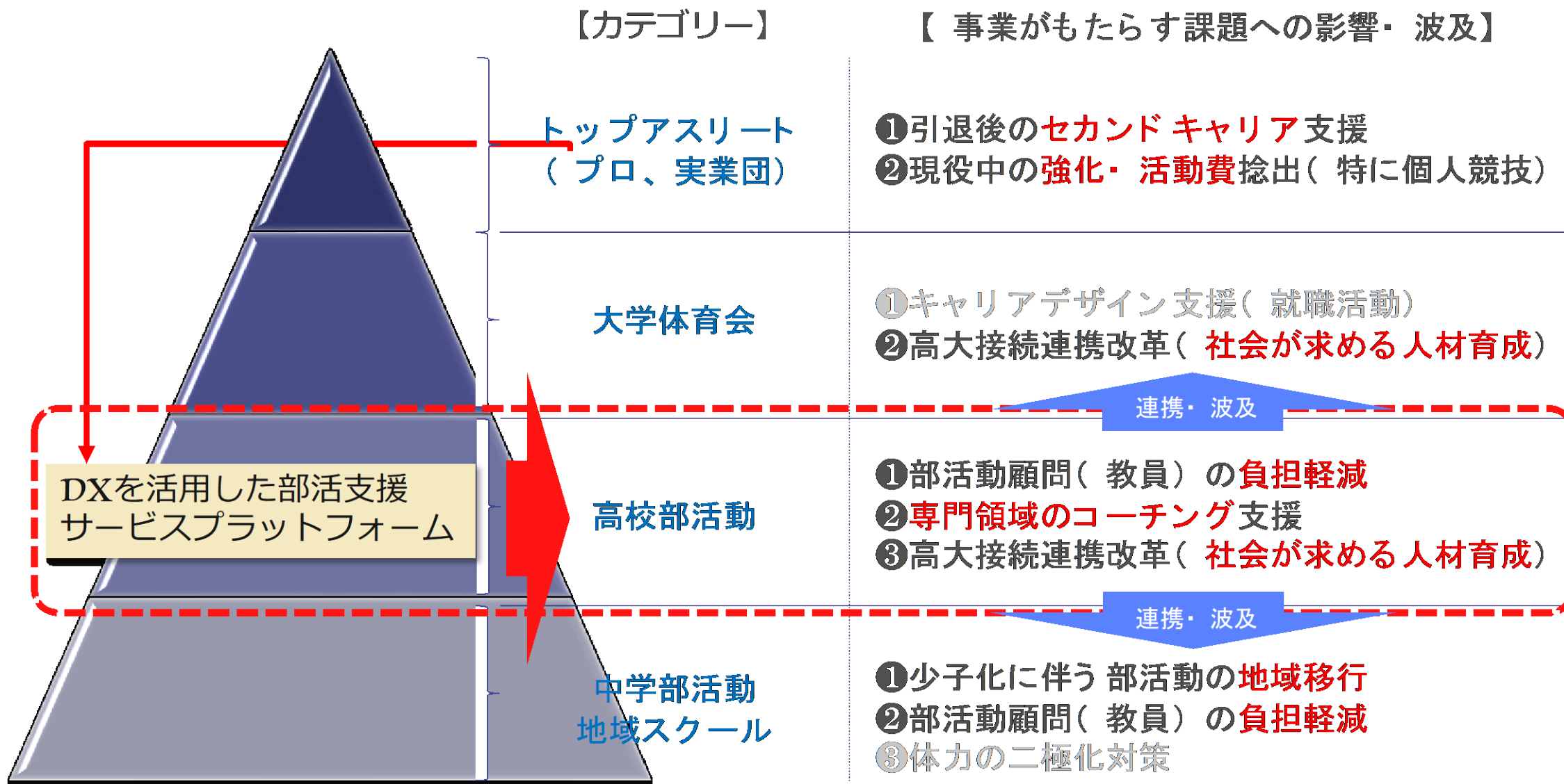
## (参考) 教員タイプ別プラットフォーム活用ガイド (D)

※教員タイプについては、p.21のタイプ分類表をご参照

タイプ	「競技経験なし」×「部活動関与度小」	
教員特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活にかかわる時間があまりなく、部活を通じた仲間づくりができていれば良いと考えている</li> <li>・チームとして上を目指しても良いし、試合も勝敗には拘らず、仲間と楽しい時間を過ごして欲しい</li> </ul>	
チーム特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力としてはそれほど強くない</li> <li>・練習時間は生徒主体で実施していることが多く、そのため強度についても高くない</li> <li>・部活動に特に力を入れているわけでもなく、競技よりも進学・進路に力を入れている。</li> </ul>	
活用ガイド	日報や出欠確認など、管理ツールを有効に活用し、業務軽減を図る。また、部活プラットフォームにどんなコンテンツがあるかを把握し、生徒にツールやコンテンツ活用の指示を出して、部活の時間に利用していく	
	管理業務	・アプリを利用することで、日々の日報管理などから、部活動の内容や出欠管理・体調管理などをチェックする
	進路指導	・AO入試対策コンテンツを有効に活用する。
	競技指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習計画の中に部活プラットフォームコンテンツの利用を計画に入れて活用する</li> <li>・オンラインコーチングやオンデマンド教材の活用方法を生徒たちに考えさせて運用させる</li> </ul>
	デジタルツール	・動作分析アプリケーションで、自分のパフォーマンスに対する課題発見・改善方法の検討など、探究ツールとして活用する





## (参考) 標的市場



## (参考) 市場規模

	中学校	高等学校	合計
国公立校数 (内、中等教育)	9,202 (39)	3,509 (39)	12,711 (39)
私立校数 (内、中等教育)	799 (18)	1,339 (18)	2,138 (18)
<b>学校数 (合計)</b>	<b>10,001</b>	<b>4,848</b>	<b>14,849</b>
<b>部活動数</b>	<b>49,806</b>	<b>84,230</b>	<b>134,036</b>
<b>運動部活生徒数</b>	<b>1,806,006</b>	<b>1,266,902</b>	<b>3,072,908</b>
全生徒数に占める割合 (全生徒数)	56.1% (3,221,002)	43.4% (2,918,501)	50.1% (6,139,503)

## (参考) 営業戦略

標的	特性	アプローチ方法
学校（自治体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国公立は教育委員会（自治体）予算が一般的（自治体予算は前年度10月～1月で確定）</li> <li>• 但し、金額によっては校長の裁量で決裁可能</li> <li>• 私立は学校長の裁量による</li> <li>• 意思決定までに時間がかかる</li> </ul>	<p><b>代理店・パートナーシップ戦略</b> （地方新聞社等、私立の学校コンサル会社）</p> 
部活動（顧問）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員の部活に対するモチベーションに差がある</li> <li>• 顧問をしている背景が異なる（体育教員か否か、競技経験があるかないか）</li> <li>• 部費としては予算が限られている</li> <li>• 教員の裁量で決裁しづらい</li> </ul>	<p>学校からのアプローチ 保護者からのアプローチ</p> 
生徒（保護者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 部活そのものに投資する意欲はない</li> <li>• 部活動に熱心な人は少ない</li> <li>• 受験に関わることには投資を惜しまない（塾や予備校、家庭教師など）</li> </ul>	<p><b>ファネルマーケティング戦略</b> YouTube・SNSから興味関心の高いユーザーに直接アプローチする</p>

## (参考) 営業戦略 (パートナーシップ)

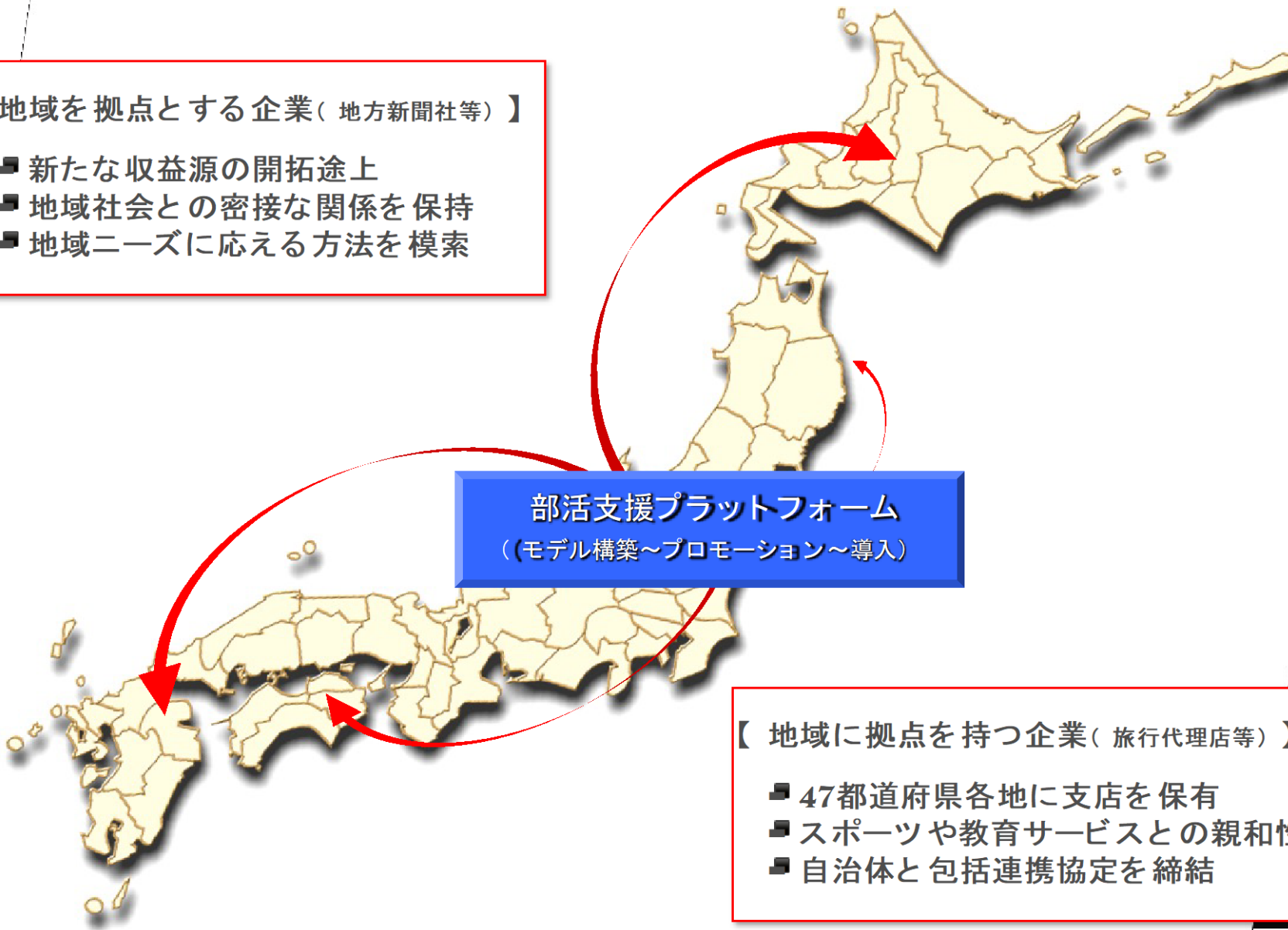
### 【 地域を拠点とする企業 ( 地方新聞社等 ) 】

- 新たな収益源の開拓途上
- 地域社会との密接な関係を保持
- 地域ニーズに応える方法を模索

部活支援プラットフォーム  
(モデル構築～プロモーション～導入)

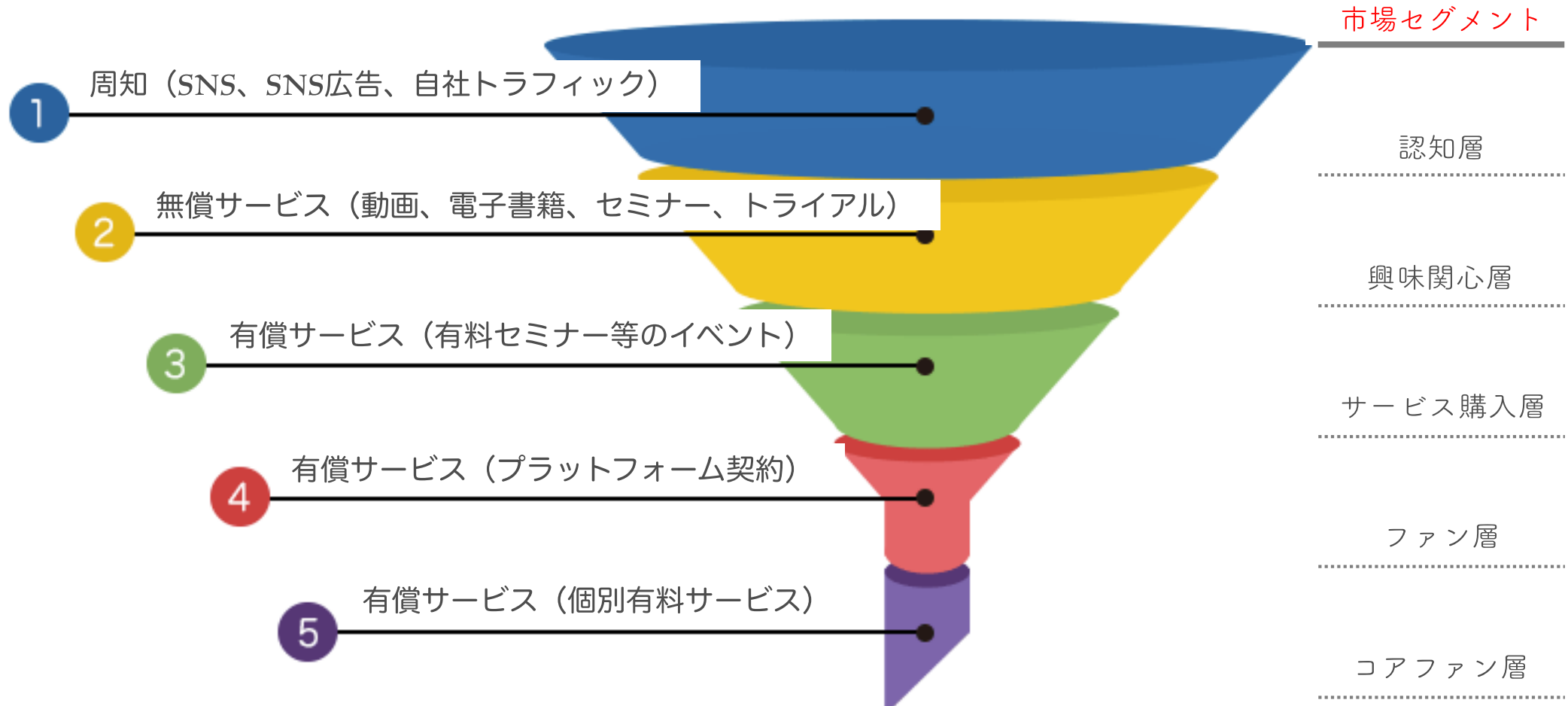
### 【 地域に拠点を持つ企業 ( 旅行代理店等 ) 】

- 47都道府県各地に支店を保有
- スポーツや教育サービスとの親和性
- 自治体と包括連携協定を締結



## (参考) 営業戦略 (ファネルマーケティング)

【保護者個人へのアプローチはファネル戦略を採用】



## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(実施概要)

### 実施概要

主 催：大分県教育委員会  
 日 時：令和6年1月27日(土)  
 場 所：別府国際コンベンションセンター  
 対 象：大分県下の高校教員及び生徒(有志)

3 事例発表(11:10~11:30)  
 「自分たちで創る部活動~大分県部活探究オンラインの活用事例~」  
 発表者：STEAM Sports Laboratory 山羽 教文 氏  
 活用校の部員(杵築高校硬式野球部・中津南高校硬式野球部)

〈 休 憩 〉 (11:30~11:40)

4 講 演(11:40~12:20)  
 「生徒が主役 ボトムアップ理論」  
 講 師：一般社団法人ボトムアップパーソンズ協会 代表理事 畑 喜美夫 氏

《 昼 休 憩 》 (12:20~13:05)

5 ディスカッション(13:05~15:30)  
 「部活動を生徒主体にデザインしよう!」  
 ファシリテーター：一般社団法人ボトムアップパーソンズ協会 代表理事 畑 喜美夫 氏

6 閉会行事(15:30~ )  
 (1) 感想発表  
 (2) 閉会のことば

### 次第

1 開会行事(10:30~10:40)

- (1) 開会のことば
- (2) 県教育委員会あいさつ
- (3) 講師並びに参加校紹介
- (4) 日程説明及び諸連絡

2 実践発表(10:40~11:10)

「大分西高校なぎなた部の取組について」

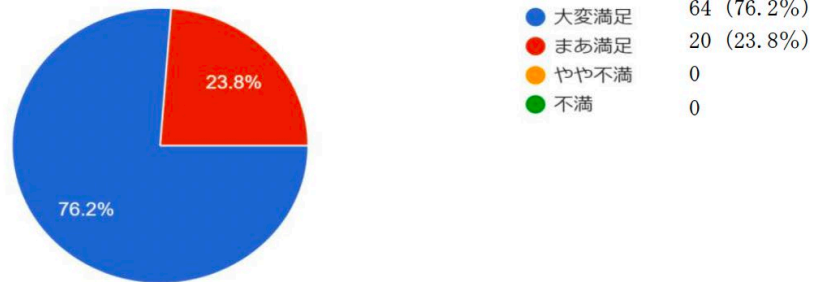
発表者：大分西高等学校 なぎなた部 顧問 築城 理恵 教諭  
 大分西高等学校 なぎなた部員



## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(アンケート結果)

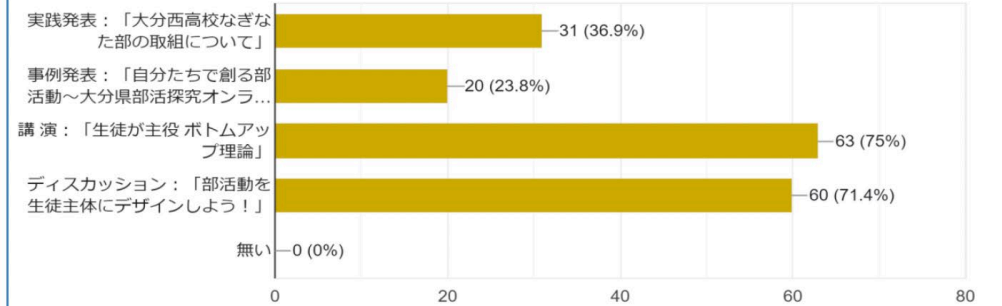
部活動サミットについて、総合的にどのくらい満足しているか、お知らせください。

84件の回答



あなたが満足している内容を、お知らせください。

84件の回答



あなたの学校や部活動でのサミット実施の可能性について、お知らせください。

84件の回答



## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・部活動を生徒主体にする意義を改めて知ることが出来た。また、ミーティングで気をつけること、ミーティングをした後にしっかり実践して反省まですることなど沢山の気づきがあった。
- ・いろんな高校の部活動の人と普段関わることがないのでいろんな気づきがありました。この高校の部活動はこんな感じなんだとか共感できる部分もありました。ボトムアップというワードをもっと広げていきたいです。
- ・ほかの部活の状況とかルールとかを知ることが出来て良かったです。今までの部活は先生から伝えられて行動することが多かったけどこれからは自分たちでメニューなど考えられるようになりたいと思いました。ディスカッションでは、最初は全然話せなかったけどだんだん慣れてきて文章もしっかり話せたので楽しかったです。部活でもする予定なのでしっかり先輩にも話せるようにしたいです。今日学んだことを部活全体に広げてもっといい部活に出来たらいいなと思いました。
- ・部活動の状況は自分たちのところしか分からなかったけど、他の部活の人たちの状況が知れて比較でき、自分たちの状況を見直す機会となった。
- ・部活動のあり方を見直すことができ、他部活との交流もできてよかった

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・今が1番チームを変えていくのに適している時期だと思うので今日学んだことをできるだけ多くとりいれ実践し、改善していきより良い部活動を自分たちで作っていきたいと思います。
- ・今までにない経験が出来て、新しい考えを知ることが出来た
- ・練習の内容などは自分たち生徒が決めているけど、不十分な点が多いので、今回の話を聞いて学んだことを他の生徒に共有してよりいい部活にしていきたいと思った。
- ・ボトムアップ理論がすごく印象に残りましたし、畑喜美夫先生の講義からの午後のディスカッション、すごく今後の部活動に必要なことなどがイメージしやすく実践しやすいなと思いました。
- ・どこから見られても一流の選手になれるようになりたいと思った。これからの部活動で必要になっていくことを学べた。
- ・ワールドカフェはとてもいいなと思った。ボトムアップはチームでも取り入れていきたいと思った
- ・他校の人たちの部活での様子を知れて、自分たちのモチベーションになって良かった。

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・ 今まで知らなかったことや主体的にやることの大切さがよりわかった
- ・ どうしたら部活全体を成長させられるか、いきいきと部活ができるようになるかが明確にわかった。とても良い機会になった。
- ・ 自分たちはプレポスやオンラインコーチング、ラプソードなど実際に使用させていただいて全ての活動が素晴らしく本当に今回選ばれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。そして畑さんの講演を聞いて自分たちに足りないところも改めて確認できたし、ディスカッションを通してボトムアップ理論の理解を深めることができたのでとても良かったです。ぜひ次回の部活動サミットに参加させていただけるとありがたいです。
- ・ 今までの概念が覆されて良い経験になりました
- ・ 畑さんのお話がとても面白く、ボトムアップ理論も自分も取り入れてみようと思いました。また、自分個人だけでなく、部活全体、学校全体で取り入れていってもいいなと思いました。それだけでなく、他の高校の生徒とのディスカッションでは、自分たちでは思いつかないような考えや練習などがあり、取り入れてみたいと思うものもあって、それが共有できたので良かったです。とても貴重な経験になりました。また来年も参加してみたいです。ありがとうございました。



## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・西校のなぎなた部の動画で、1人も気持ちはずれることなく全員が本気で部活をする姿を観て、今の自分たちの部活との圧倒的な差を感じ、同時に自分たちもこうありたい、こうあるべきだと思った。非常に刺激になる動画だった。また、畑先生の講演「生徒が主役 ボトムアップ理論」を聴いて、部活動を通してユニフォームを脱いだ後に残る人間性を育てるという新たな考えを学ぶことができた。さらに、ディスカッションを通じて目指すべき部活をイメージするできたこと加えて、初対面の人と意見を伝え合うコミュニケーション能力も伸ばすことができた。楽しみながら学ぶところができて、非常に充実した1日になった。参加してよかったと心から思う。
- ・ボトムアップに触れて、中学の頃から抱いていた、部活に対しての蟠りが無くなった気がします。たくさんの学校にこれが広がれば、もっとたくさんの生徒にとっての部活が楽しいものになると思います。我が校でも、是非広めていきたいです。
- ・今までこのような大規模な会議みたいなのに出たことがなくてすごく新鮮だった。多種多様な意見が聞けてよかったし、前向きな意見が多く出たので自分の学校に持って帰れたことが1番の収穫だった。これからの部活動の運営、方針に繋げて活かしていきたいと思う。

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・部活動そのものについて深く考えることができて、いい機会になった。
- ・今少しずつ主流になりつつあるボトムアップについて学ぶことができて良かった。
- ・選手主体で考えるチームを作っていくのも面白いと思った
- ・先生中心ではなく生徒中心ということを知りとても驚いた。それでも強いチームは本当に強いチームだと思う。自分のチームでも、一気に無理だけれどゆっくり徐々に生徒中心の部活を作っていきたい。
- ・今回の活動を通して、自分たち生徒が受け身の部活動ではだめなんだと強く感じた。  
自分たちから先生に提案したり質問したりしながら自分たちで作り上げる部の大切さを学べるよい機会となった。
- ・部活動のあり方について考えさせられる良い機会となった。先生から言われることをするだけのトップダウンだけだと生徒の主体性もなくなり、その先の社会に出た時指示待ち人間になってしまう恐れがある。ボトムアップを取り入れることで生徒の主体性も上がり、今自分に何が必要なのかということがわかり練習に対する意欲も高くなる。また、その先の社会で実用的な人材になることにもつながるとても身のある会だった。



## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・今までは先生に指示されて動くことが多かったが、ボトムアップ理論という言葉を知って生徒が主体となって部活動を動かすことのメリットや大切さを知ることができ、とてもためになった。来年もぜひ参加したい
- ・いままでの考え方ではダメなんだなということが分かりました。主体性を持ち、一人一人が考えて効率性を求めて行動していこうと思いました。
- ・今回のサミットでは特にボトムアップ理論というものに興味を持ちました。最初は簡単に見えたけど、話を聞くにつれてとても難しいと思いました。何もかもを生徒でやるには一人一人が責任を持ってやらないと崩れる。そういった意味でとても難しいと思いました。また、ディスカッションでは他部活との生徒と楽しく意見を言い合えてとても面白かったです。今日のサミットで生かせるものが沢山あったので一つでも実践しようと思いました。
- ・色々な学校の人と交流できたし、部活についてもしることができて楽しかった
- ・予想以上に勉強になった。

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・今回の交流会や講演会を通して多くのことを学びました。学んだことはこれからの活動に活かしていきたいです。
- ・初対面の人と考えを共有できて参考になった
- ・最初は緊張したけどだんだんと慣れてきて、他校の生徒と楽しく交流することができました。とても勉強になったし楽しかったです！
- ・サミットを終えて、部活でいつもより長いミーティングが行われ、1・2年生、先生も含めてたくさんのお話ができました。今まで思っていたことを言って練習内容が変わったり、休みが増えたりしたのでとてもいい会だったと思いました。
- ・どの高校の部活に熱心に頑張っていて負けられないと思ったボトムアップを取り入れながら頑張っていきたい
- ・新しい考え方を知れて、これからは活かしていくべきだと思った。
- ・改めて、色々な人に自分の意見や発表を伝えるということの楽しさ、大切さ、またその中にある難しさなどいろいろなものを学べた。畑さんのトークを聞いたり、なぎなた部の発表を聞いたりして、実際にこれからの自分たちに活かしていけることばかりを学べたと思うので、これからは活かしていきたい。
- ・ボトムアップ理論はとても興味深い内容でした

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・新しい考え方が見つかり他校の生徒とも交流できたので有意義な時間を送ることができました。
- ・とても良いものだと思った。ボトムアップ理論はとても考えさせられた。だけど、それをすると部活動によっては悪い方向に進んでしまうこともあるかもしれないからその部活動に合わせた方法をする必要があると感じた。また、他校との交流ができたのでよかった。こういう機会が増えると嬉しい。大事にしたいとも思った。
- ・今回学んだボトムアップは日頃している部活とはまったく違う部活動の仕方で新鮮味が強く、興味を惹かれました。実際取り入れてみたいと思い行動に移していきたいです。
- ・他の部活の人の大変な部分や共通している部分を共有できてよかったし、貴重な講演やディスカッションでの他校の生徒と関わった事が良かった。ぜひまた開催してほしい。
- ・今回の部活動サミットを通して、ボトムアップ理論など今まで聞いたことがなかった事柄について学ぶことが出来ました。また、普段なら交流しない他部活の人と実際にディスカッションすることで、新たな発見や気づきがありました。今回の活動で学んだことを自分たちの仲間に共有し、実践していきたいと思います。
- ・自分たちの部活の現状や他の学校の生徒との意見交換などでより良い部活について考えることができ、自分に何ができるか考えて生徒主体の部活を作っていくことが大切でとゆうことを学べたのでよかった



## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(生徒のアンケート結果)

- ・ 昨年も参加したけど、やはりディスカッションがいちばん良かった。やり方を学べるし価値観を共有できる。去年は先生も一緒に席を移動しながらやって先生の思っていることも聞いたのが良かった。生徒同士だけでなく顧問との対話の時間を作るべきだと思った。
- ・ ボトムアップ理論にものすごく感銘を受けました。選手を主体にして活動させるということは本来目指したいところではあるがそこには選手が覚悟を持って取り組まなければ成立しないし、指導者もちょうど良い距離感が求められるとも思うのでとても難しい理論だと思う。周りは、楽でいいなとか言うのかもしれないが、ボトムアップ理論は畑先生が言っていた通り世界一厳しい理論だと私も感じました。そのボトムアップ理論を徹底して、日本一までのチームを作った畑先生のお話を聞いて自分の力にもものすごく上がった気がして今回の部活動サミットはものすごくいい経験になった。こういう会を開いて頂きありがとうございました。
- ・ 大分西高校さんのタブレットを活用した、反省ノートを活用したいと思いました。1人の力ではどうにもならないので、部活の仲間に、部活動サミットで学んだことを話して、協力して貰えるように頑張りたいです！

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(教員のアンケート結果)

- ・部活動のあり方について考える良い機会になったと思います。ありがとうございました。
- ・大変参考になった。が、時間設定が悪かった。
- ・ボトムアップ理論には以前から興味がありましたので、今回具体的な話を聞いて良かったです。また、午後のディスカッションでは生徒の本音が聞いて顧問としてもいろいろと考え直すきっかけになりました。
- ・畑先生のボトムアップ理論を聞き、実際に生徒がワールドカフェ方式で話し合っている姿を見て、実際に部活動の中で取り入れていきたいと思いました。また、練習メニューも生徒に考えさせたり、月の計画を立てて取り組むなどのアイデアもいただいた事で今後の取り組みの方向も少しイメージできた気がします。
- ・とても参考になるサミットでした。ありがとうございました。
- ・畑先生のお話がすごく刺激的で、部活動指導を考え直すきっかけになりました。本当に参加してよかったです。生徒2名を参加させましたが、出来たら全員に視聴させたかったです。参加した生徒は目の色が変わった様子で、とても前のめりに感想を話してくれました。その中で「全員に聴かせたかったです」という言葉もありました。今回の動画等を参加できなかった生徒に視聴させることは出来ないでしょうか？難しい点もあるかと存じますが、ご検討の程よろしく申し上げます。

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(教員のアンケート結果)

- ・これまで指導者講習会などで部活動や指導の在り方について受講する機会があったが、生徒が受講するこの講習会は、とても意義があるように感じた。そして今回最後の各班の発表で全ての班が挙げた点が、先輩後輩先生とのコミュニケーションの取り方と休みのことだったのが、今の部活動の大きな課題だと感じた。それぞれの部活動の立場や環境は様々であるが、生徒も先生も納得できる部活動のあり方を考える必要があると思った。
- ・とても良い取り組みだと思います
- ・大変意義深い取り組みと思いました。生徒も回数を重ねるごとにドンドン語彙力も上がり…。当初、緊張した面持ちの生徒も後半は笑顔で発言していました。現場として、深い討議に繋げるための作戦を考えて取り入れてみたいと思います。準備等、本当にご苦勞様でした。第3回にも期待しています。※休養日について再考します(苦笑)
- ・非常に勉強になりました。生徒と対話してみようと思いました。
- ・日頃あまり見せない部員たちの本音が見えた。部活動が勝つことを求めるものではなく、自ら課題を解決して成長が感じられるものになってほしい。せっかくの放課後の時間を割いてまでやろうと思えるような活動にしたい。



## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(教員のアンケート結果)

- ・部活動のあり方を考えるいい機会となりました。畑先生の実例をもとに本校の部活動に最適化し、今後の部活動で人間づくりを行っていききたい。
- ・貴重な機会に参加できて有意義な時間となりました。昨年のバスケの指導者講習にも参加させてもらっていたので、教員側の取り組み事例がより具体的に実感できましたが、逆に言えば、今回初めてボトムアップに触れた方は、自チームに対する深い分析と長期的なビジョンに基づいた取り組みを行わないと成果が出ないとも感じています。畑先生が成功したのは畑先生だからであって、成功者の言葉を鵜呑みにせず、目の前の生徒と現状にしっかり向き合い、少なくとも3年はかかるという覚悟で、特に若い指導者方が部活改革に取り組んでくれるといいなと思っています。タイムリーにも、まるで対照的なベタベタの昭和をモチーフにした『不適切にもほどがある!』というドラマをいろんな意味で感慨深く見ました。あれはあれでよかったなあ…
- ・講演や協議がとても有意義で生徒や教員の意識が変化したと思う。
- ・生徒の本音とこれからの部活動のあり方を考える良い機会を頂けて本当に良かった。
- ・他校の部活生と関わることができ、大変いい機会となりました。また内容に関しても、私が今後取り組んでいきたい内容でしたので、勉強になりました。
- ・生徒がボトムアップの考え方に刺激を受けていたと思います。ありがとうございました。

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(教員のアンケート結果)

- ・指導者としての今後の方針等、勉強になった。生徒との関わり方を見直すいい機会としたい。
- ・畑氏のボトムアップ理論を、教員だけでなく生徒が共有できたことが大変有意義だったと思います。
- ・ボトムアップの考え方がとても良くわかりました。実践していこうと思います。この機会を頂き感謝します。ありがとうございました。来年も参加したいです。
- ・畑先生の講義演習に興味があり参加しました。魅力のあるチームづくり、生徒が自己肯定感をもてる集団づくりの手法として大変参考になるとともに、ぜひ取り入れてみたいと感じました。
- ・生徒の自己肯定感を高めるという点では、大変参考になった。しかし、時間を超過しすぎて後半は生徒も教員も帰りたいというムードが流れていた感じがした。
- ・生徒が主体的に取り組んで行く、いい機会になりました。
- ・生徒が主体的に話し合いに参加できてよかったと感じている。指導者としては、トップダウンとボトムアップの割合を考えながら指導するということがとても腑に落ちた。今後の指導でいかしていきたい。今後もこのような会を開催して欲しいです。準備から運営までありがとうございました。
- ・高校生の運動部活動に対する考え方の傾向が理解できた。また、自分自身の指導法を考え直すきっかけとなり、とても有意義だった。

## (参考) 大分県運動部活動研修会「部活動サミット」(教員のアンケート結果)

- ・【生徒の様子】公式大会参加後で、競技に向き合う意識のついた頃にサミットに参加させていただきさらにモチベーションが高まったようです。日頃はあまり主張しない本校生徒ですが、周囲の生徒に感化されてうちに秘めた思いを紡いでいたのが印象的です。練習では選手同士のコミュニケーションも増えており、オフ明けの練習では靴を部室の真ん中に綺麗に並べ、制服をの袖をポケットに入れていました。(拍手の後は、せーの、いいね!とっています。)彼らがどの程度ボトムアップ理論を理解しているかは今後の観察次第ですが、選手達のモチベーションが高まっているこの時期を見逃さず、チームの転換期にしていきたいと思います。【指導者としての視点】生徒と指導者の関係について改めて見直す機会となりました。即効性を求めてつい『こうだ』と言ってしまいがちではありますが、長い目でみて生徒の成長につながる掛け声、選択をしていきたいと思いました。ボトムアップ理論については組織運営をする上でボトムアップとトップダウンの比率は指導者の力量(理論の深い理解)が問われる部分だと感じました。生徒に思考・判断させるための知識を与えずに任せるのは『放任』になるため、どこまで指導者が介入し、選手に権限を『委任』していくかを今後の組織運営で気をつけていこうと考えています。大変お忙しい中、本サミットの企画・運営等ありがとうございました。